OLYMPUS®

- この取扱説明書は、撮影・再生機能やカメラの機能・設定のカスタマイズ、撮った画像のパソコンへの取込みなど応用的なテクニックについて説明しています。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

本書の使い方

本書では、使いたい機能・知りたい機能をすぐに検索できるように、もくじ、索引、メニュー一覧のページが用意されています。

もくじから探す

☞ P 4

本書の全タイトルが並べられています。カメラのボタンやメニューの操作方法、各機能の働きを知りたいときなどの目的別に構成されています。.

こんなときに........
撮影した画像を再生したい

「6 画像の再生で使える機能」の章から
「1コマ再生. . . . .81」のページを検索します。

索引から探す

☞ P 183

本書で使っている機能名などの用語が50音順に並べられています。本書を読んでいて、分からない言葉や知りたい言葉がでてきたときに、索引からその用語を使っているページを探すことができます。カメラの各部名称や液晶モニタに表示される内容の一覧も巻末に集められています。

こんなときに........
「HQ」について知りたい

→「HQ. . . . .63、158」のページを検索します。

メニュー一覧から探す

☞ P 158

カメラのメニュー名がツリー構造で記載されています。メニューを操作しているときに、知りたいメニュー名がでてきたときはメニュー一覧からその機能の説明ページを探すことができます。

こんなときに........
メニュー画面にある[WBモード]ではどんな設定をするの？

→ メニューの操作順を追って「WB モード」のページを検索します。

ノイズリダクション	OFF* / ON		P 79
WBモード	オート*	R -7~+7	P 73
		G -7~+7	
	5300K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	6000K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	7500K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	3000K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	4000K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	4500K	R -7~+7	
		G -7~+7	
	6600K	R -7~+7	
		G -7~+7	
		R -7~+7	
		G -7~+7	
	CWB	2000K~14000K	
ISO感度	オート* / 100~400（拡張時400~3200）		P 70

本書の操作説明の読み方は、「操作説明ページの見方」（P 3）をご覧ください。

操作説明ページの見方

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

(!)	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

もくじ

4 ピント合わせの機能..57

ピント合わせに使う機能について説明します。

5 露出・色・画像...63

露出・色・画像に関する機能について説明します。

6　画像の再生で使える機能......81

撮影した画像を再生する際に使う機能について説明します。

7　設定・機能のカスタマイズ......95

その他の各種機能について説明します。カメラを使用する環境に合わせて、設定や機能を変更することができます。

8　プリントする 112

撮影した画像をプリントする方法について説明します。

9 パソコンと接続する 123

カメラの画像をパソコンに取り込んで保存する方法について説明します。

10 もっとカメラのことが知りたいときに 135

困ったときやカメラをもっと知りたいときにご覧ください。

11 資料........155

カードや充電池の取り扱いの説明、カメラの機能や表示についての一覧表です。

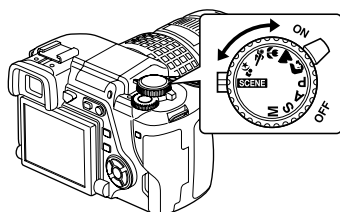
12 交換レンズについて........176

交換レンズの取り扱いについて説明します。

13 その他........179

カメラや付属品についての使用上のご注意を説明します。

モードダイヤルの使い方

モードダイヤルを使うと、撮影する被写体に合わせてカメラの設定を簡単に変えることができます。また、それらの設定から撮影する環境に合わせて変更を加えることができるものもあります。

かんたん撮影モード

撮影する被写体に合わせて、最適に設定されています。また、モードによっては設定を変更することもできます。（☞ P 17）

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。

風景撮影

風景を撮るのに最適です。

マクロ撮影

被写体に近接した撮影を行うとき（マクロ撮影）に使用します。

スポーツ撮影

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。

夜景 & 人物撮影

夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。

SCENE シーンモード

撮影状況に合わせて、撮影シーンを20種類の中から選択することができます。（☞ P 19）

応用撮影モード

次の4つの撮影モードにより、さまざまな撮影テクニックを使って撮影することができます。

P プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。（☞ P 20）

A 絞り優先撮影

絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。（☞ P 22）

S シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。（☞ P 24）

M マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。（☞ P 26）

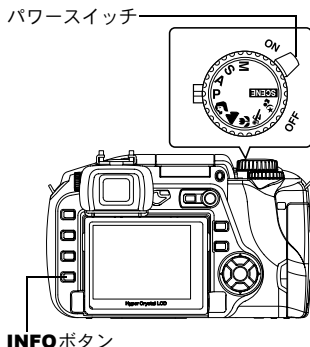
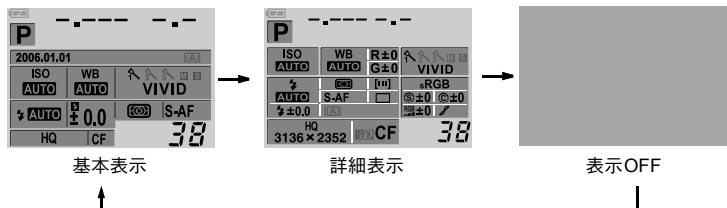
機能の設定方法

スーパーコンパネ表示

パワースイッチをONにすると、液晶モニタにスーパーコンパネが表示（撮影情報）されます。

- **INFO** ボタンを押すたびに表示が切り替わります。
- モードダイヤルが SCENE のときは、シーンメニューが表示されます。（☞ P 19）

スーパーコンパネ

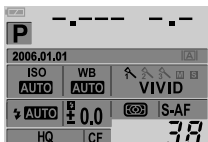
基本表示　詳細表示　表示OFF

設定の方法

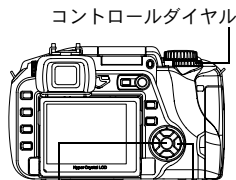
設定には以下の3通りの方法があります。

- スーパーコンパネ表示を見ながら設定する（☞ P 13）
- 機能の割り当てられたダイレクトボタンを使って設定する（☞ P 14）
- メニューを表示して設定する（☞ P 15）

スーパーコンパネを使って機能を設定する

スーパーコンパネに表示されている項目を選んで、設定を変更します。

1 Ⓞボタンを押します。
- スーパーコンパネにカーソルが点灯します。

スーパーコンパネ

カーソル

コントロールダイヤル
Ⓞボタン　十字ボタン

2 十字ボタンでカーソルを設定したい機能に移動させます。

例）ホワイトバランス設定の場合

3 コントロールダイヤルを回して設定を変更します。
- 項目を選択した状態でⓄボタンを押すと、その機能のメニューが表示されます。コントロールダイヤルを回して設定を変更します。
- 数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。

ダイレクトメニュー

スーパーコンパネ操作説明について

本書ではスーパーコンパネでのダイレクトメニューまでの設定操作を次のように表記しています。

例）ホワイトバランス設定の場合

Ⓞ ▶ 十字ボタン **WB**表示 ▶ Ⓞ

1 カメラの機能を使う

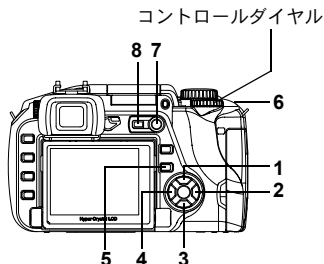
ダイレクトボタンを使って機能を設定する

このカメラは、機能の設定がすばやくできるように、ボタンに機能を割り当てたダイレクトボタンを備えています。

1 設定したい機能のボタンを押します。

• ダイレクトメニューが表示されます。

例）ホワイトバランス設定の場合

ダイレクトメニュー

2 コントロールダイヤルで設定します。

• 数秒間何も操作しないと設定は確定され、スーパーコンパネ表示に戻ります。（☞「ボタン保持時間の設定」P 109）また、Ⓞボタンを押しても設定が確定されます。
• ダイレクトボタンで設定するときは、ファインダでも確認できます。

ファインダ

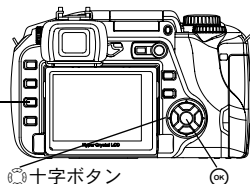
ダイレクトボタン一覧

ボタンに割り当てられた機能は以下の通りです。

ダイレクトボタン			機能	参照ページ
1	WB	ホワイトバランスボタン	ホワイトバランス設定	P 73
2	AF	フォーカスモードボタン	フォーカスモード設定	P 58
3	ISO	ISOボタン	ISO感度設定	P 70
4	(測光)	測光ボタン	測光方法設定	P 65
5	(ドライブ)	ドライブボタン	連写/セルフタイマー/リモコン	P 50、P 51 P 53
6	(露出補正)	露出補正ボタン	露出補正	P 67
7	(ライブビュー)	ライブビューボタン	ライブビュー機能	P 28
8	A/B	A/Bモードボタン	ライブビューモード切替	P 28

メニューを表示して機能を設定する

1 MENUボタンを押します。

- 液晶モニタにメニューが表示されます。

ボタンの操作ガイドが表示されます。

中止 →MENU　:MENUを押して設定を中止します。

選択 →　:十字ボタンのを押して、選択肢を選びます。
表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。

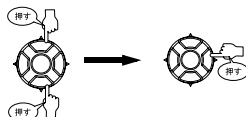
決定 →OK　:OKを押して選択肢を決定します。

2 でタブを選択します。

- 設定項目がタブで分類されています。

タブの種類

- 撮影に関する設定をします。
- 撮影に関する設定をします。
- 再生に関する設定をします。
- 撮影機能をカスタマイズします。
- カメラを使いやすくする機能を設定します。

3 機能を選択します。

ウィザード画面に進みます（メニューリストで設定できる機能もあります）。

4 設定項目を選択します。

ウィザード画面の例　　メニューリスト画面の例

5 メニューから抜けるまで、繰り返し OK を押します。

- 通常の撮影画面に戻ります。

メニュー操作説明について

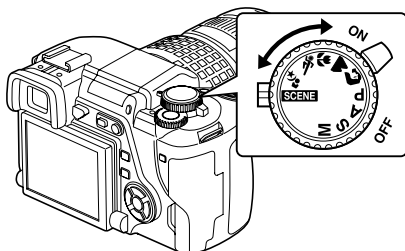
本書ではメニュー操作を次のように表記しています。

例）ホワイトバランス設定の場合

MENU ▶ [ ] ▶ [WBモード] ▶ 設定項目

メニューの全一覧は、「メニュー一覧」（ P 158）をご覧ください。

撮影モード

このカメラはモードダイヤルから以下の撮影モードを選ぶことができます。

かんたん撮影モード

• 撮影シーンに合わせて選びます。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

(ポートレートアイコン)	ポートレート
(風景アイコン)	風景
(マクロアイコン)	マクロ
(スポーツアイコン)	スポーツ
(夜景&人物アイコン)	夜景&人物
SCENE	20種類の撮影シーンから選べます。☞「シーンモード」(P 19)

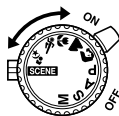
応用撮影モード

• 絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。

P	プログラム撮影 （☞ P 20）
A	絞り値優先撮影 （☞ P 22）
S	シャッター優先撮影 （☞ P 24）
M	マニュアル撮影 （☞ P 26）

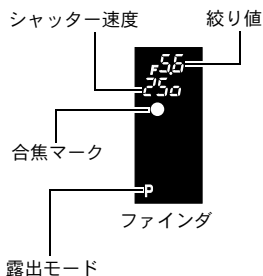
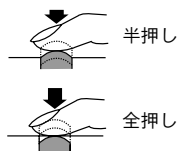
設定する

モードダイヤルを、使いたい撮影モードに合わせます。

- SCENEのときは☞「シーンモード」(P 19) をご覧ください

撮影する

A/**S**/**M**モードでは、まずシャッター速度や絞り値を設定します。
☞「**A**: 絞り優先撮影」(P 22)、「**S**: シャッター優先撮影」(☞ P 24)、「**M**: マニュアル撮影」(☞ P 26)

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しすると撮影されます。

- 半押しのときは、ファインダ内は右図のように表示されます。

シーンモード

撮影シーンや撮影状況に合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。モードダイヤルのシーンモードと違って、ほとんどの機能は変更できません。

1 モードダイヤルを SCENE に設定します。

- シーンメニューが表示されます。

2 でシーンモードを選択します。

- 選択している撮影シーンのサンプル画像と説明が表示されます。

3 ボタンを押します。

- カメラが撮影モードに入ります。
- 設定変更したいときは、ボタンを再度押すとシーンメニューが表示されます。

シーンモードの種類

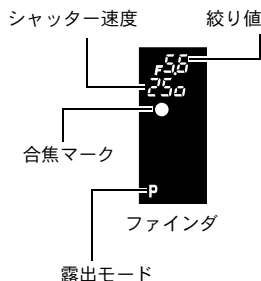
アイコン	モード	アイコン	モード
	1 ポートレート		11 マクロ
	2 風景		12 ネイチャーマクロ
	3 風景＆人物		13 キャンドル
	4 夜景		14 夕日
	5 夜景＆人物		15 打ち上げ花火
	6 チャイルド		16 文書
	7 スポーツ		17 パノラマ
HI	8 ハイキー		18 ビーチ＆スノー
LOW	9 ローキー		19 水中ワイド
	10 ぶれ軽減		20 水中マクロ

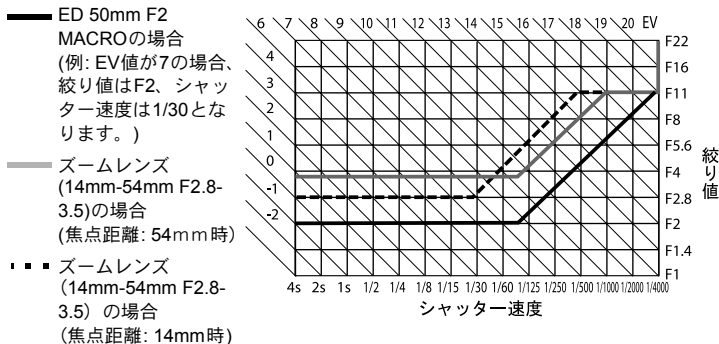
応用撮影モード

P: プログラム撮影

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する自動露出モードです。
また、プログラムシフトを使って、適正露出のまま絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することもできます。

モードダイヤルを P にします。

スーパーコンパネ表示

Pモードの絞り値とシャッター速度

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

プログラムシフト（Ps）

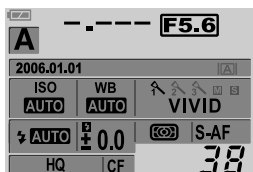
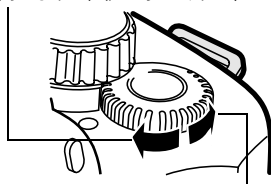
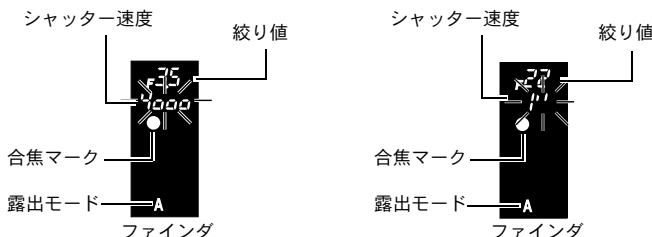
Pモードのときコントロールダイヤルを回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダやスーパーコンパネの露出モードの表示**Ps**が、**P**に変わるまでコントロールダイヤルを回します。または、カメラの電源を一度切ります。フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

A: 絞り優先撮影

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。背景のボケ具合は、プレビュー機能により確認することができます。☞「プレビュー機能」(P 30)

絞り値（F値）を小さくしたとき

絞り値（F値）を大きくしたとき

モードダイヤルをAにし、コントロールダイヤルを回して絞り値を設定します。

シャッターボタンを半押ししたときのファインダ内表示

シャッター速度表示（高速側）が点滅しているときは、露出オーバー（過度）です。絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。

シャッター速度表示（低速側）が点滅しているときは、露出アンダー（不足）です。絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。

こんなときは

絞り値を変更したがシャッター速度の点滅が終わらない

→ 高速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」(P 70)

→ 低速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」(P 70)

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P 100)

設定した絞り値での被写界深度を確認したい

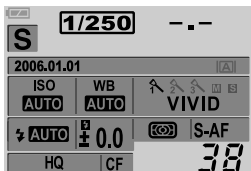
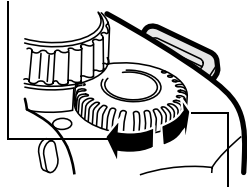
→「プレビュー機能」（P 30）をご参照ください。

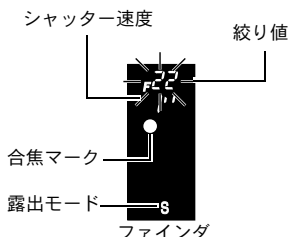
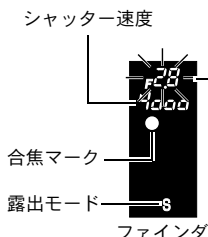
S: シャッター優先撮影

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

シャッター速度を遅くすると、動いているものはブレて撮影されます。このブレが躍動感や動きのある仕上がりになります。

モードダイヤルを S にし、コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

シャッター速度が遅くなります

シャッター速度が速くなります

シャッターボタンを半押ししたときのファインダ内表示

絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅*しているときは、適正露出が得られていません（露出アンダー）。シャッター速度を遅くします。

絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅*しているときは、適正露出が得られていません（露出オーバー）。シャッター速度を速くします。

*使用されるレンズ及び焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

こんなときは

画像がブレる

→ 近接撮影や超望遠撮影では、画像がブレやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

シャッター速度を変更したが絞り値の点滅が終わらない

→ 最小絞り（値がもっとも大きい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定―ISO感度」(P 70)

→ 開放絞り（値がもっとも小さい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定―ISO感度」(P 70)

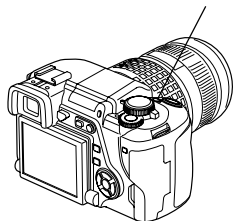
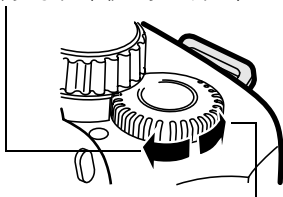
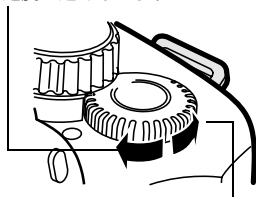
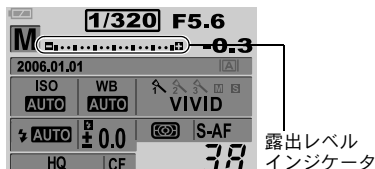
露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P 100)

M: マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。また、天体撮影や打ち上げ花火の撮影などに便利なバルブ（BULB）撮影も可能です。☞「バルブ（BULB）撮影について」(P 27)

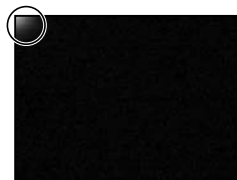
モードダイヤルを M にし、コントロールダイヤルを回して設定します。

- シャッター速度：コントロールダイヤルを回して設定します。
  絞り値　　　　：ボタンを押しながら、コントロールダイヤルを回して設定します。
  カスタムメニューの**[ダイヤル]**設定により、逆の設定にすることができます。☞「コントロールダイヤルのカスタマイズ」(P 102)
- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/4000~60"（秒）および**[BULB]**（バルブ）に設定できます。
- ダイヤルを回すごとに、1/3EVステップで絞り値とシャッター速度が変わります。カスタム設定によりステップを変更することもできます。☞「露出ステップ」(P 100)

- スーパーコンパネに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV~+3EVの範囲で表示されます。

露出アンダー

露出オーバー

適正露出

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生したり、画面左上が明るく写る場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、30秒以上の長秒時の露出で顕著に現れます。ノイズリダクションを使うと、これらのノイズを軽減することができます。

☞「ノイズリダクション—長秒時の画像のノイズを軽減する」(P 79)

バルブ（BULB）撮影について

→ シャッターボタンを押しているあいだ露光し続けるバルブ撮影（最長 8 分まで）が可能です。**M** モードでシャッター速度を **[BULB]** に設定します。また別売のリモコン（RM-1）を使うと、リモコンバルブ撮影ができます。
☞「リモコンによるバルブ撮影」(P 55)

こんなときは

画像がブレる

→ シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

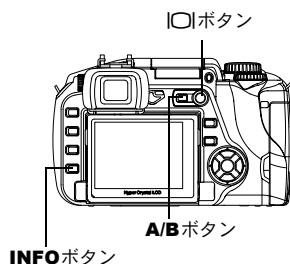
露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を1/3EV・1/2EV・1EVステップのいずれかに設定してください。 ☞「露出ステップ」(P 100)

ライブビュー

撮影する被写体を液晶モニタに表示して構図を確認したり、拡大表示して液晶モニタを見ながら撮影することができます。

[□] ボタンを押します。

• 液晶モニタに被写体が表示されます。**INFO** ボタンを押すと撮影情報の表示を消すことができます。

ライブビューにはAモードとBモード（MF固定）の2つのモードがあります。撮影状況に合わせて切り替えることができます。

A/B ボタンを押すとメニューが表示されます。コントロールダイヤルで選択して、OKボタンを押してください。

対応可能モード	Aモード	Bモード
撮影モード（モードダイヤル：ポートレート, 風景, マクロ, スポーツ, 夜景&人物）	✓	✓
撮影モード（**P**, **A**, **S**, **M**）	✓	✓
シーンモード（SCENE）	✓	—
連写	✓	✓
拡大表示	—	✓

✓：対応可　　—：対応不可

注意

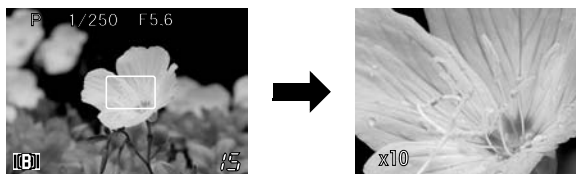
• Aモードをお使いの場合は、正しい測光ができない場合がありますので、アイピースシャッターを閉じてください。Aモードで動作中は、ファインダ内に設定値は表示されません。
• Bモードをお使いの場合は、画面内に高輝度の光源があると黒く表示される場合がありますが、撮影画像は正常に記録されます。

拡大表示の操作（B モード）

被写体を10倍に拡大して液晶モニタに表示することができます。また、拡大した画像でピントの確認や調整ができます。

1 INFOボタンを押して拡大表示の画面に切り替えます。

2 で枠を移動し、ⓞボタンを押します。

- 枠の部分が拡大表示されます。
- ⓞボタンの長押しで移動した拡大枠は中央に戻ります。

3 フォーカスリングを回してピントを合わせます。

注意

- Bモードではオートフォーカスは使えません。
- Bモードで長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。
- レンズを交換するとライブビューは停止します。
- ダイレクトボタンでの設定値の変更はできません。

罫線表示

液晶モニタに被写体を表示させて構図を決めるときに、罫線を表示させることができます。ライブビューがAモード、Bモードそれぞれのときに表示されるものを設定しておきます。

MENU ▸ [] ▸ [罫線表示]

[Aモード] OFF
パスポート
パスポート

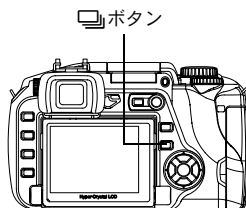
[Bモード] OFF
黄金分割
方眼
目盛

2 撮りたいものに合わせて設定する

プレビュー機能

実際に絞りを動作させて、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。□ボタンを押してプレビュー機能が働くように、あらかじめメニューで□ボタンの機能を設定しておく必要があります。

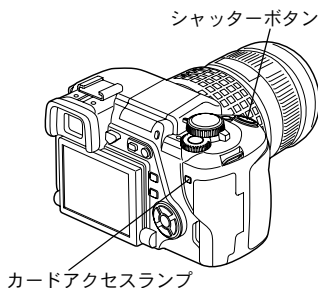
☞「□ボタン機能」(P 103)

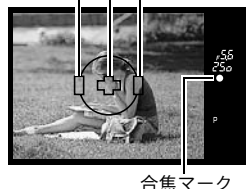
□ ボタンを押すと、設定された絞り値まで絞り込まれます。

ピントが合わないとき（フォーカスロック）

被写体が画面中央にないとき、コントラストが弱いときなど下記のような被写体ではオートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。

フォーカスロック（被写体が中央にないとき）

1　ピントを合わせたいものにAFフレームを合わせ、シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。

- ピントが固定されます。 AF合焦マークと、ピントの合ったAFフレームがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- スーパーコンパネが消えます。

2　半押しした状態のまま、撮影したい構図に移し全押しします。

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

被写体のコントラストが弱いとき

明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなどのように、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わない場合があります。被写体と等距離にあり、コントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。

オートブラケット撮影

露出やホワイトバランスの設定に迷ったり、設定を変えて何度も撮り直せないときに利用できます。
このカメラでは次のオートブラケット撮影ができます。

ブラケット撮影	内容	参照ページ
AEブラケット	露出を変化させて撮影できます。	P 33
WBブラケット*	ホワイトバランスを変化させて撮影できます。	P 35
MFブラケット	ピント位置を変化させて撮影できます。	P 36
フラッシュブラケット	フラッシュ発光量を変化させて撮影できます。	P 45

* WBブラケットは、他のブラケット撮影と同時に設定・撮影することができます。

AE ブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適性露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正~−補正~＋補正の順に撮影されます。

例）BKT設定が**[3F 1.0EV]**の場合

-1.0EV

±0

+1.0EV

補正量：0.3・0.7・1.0

露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。露出ステップはメニューで変更可能です。露出補正量は±1.0までです。

☞「露出ステップ」(P 100)

撮影枚数：3 枚

1 MENU ▸ [📷2] ▸ [AE BKT]

2 ◎で設定します。

[OFF] / [3F 0.3EV] / [3F 0.7EV] / [3F 1.0EV]

3 ⓞボタンを押します。

AE BKT
OFF
3F 0.3EV
3F 0.7EV
3F 1.0EV
中止➔MENU　選択➔◇　決定➔OK

4 撮影します。

ファインダ

単写の場合

シャッターボタンを全押しするごとに、1枚ずつ露出を変えて撮影します。

- ファインダ内に次の撮影の設定が表示されます。

連写の場合

設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。自動的に露出を変えて撮影します。

- シャッターボタンから指をはなすと、ブラケット撮影が一時中断されます。一時中断したときはスーパーコンパネの**[BKT]**が青色表示されます。

露出モードによる補正の方法

設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

Pモード：絞り値とシャッター速度
Aモード：シャッター速度
Sモード：絞り値
Mモード：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心にAEブラケット撮影をしたい

→ 露出補正値を設定した状態で、AEブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてAEブラケット撮影が行われます。

注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

WB ブラケット撮影

1回の撮影から、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、カメラの設定で撮影された画像と、その画像から色合いを変更した画像2枚が記録されます。

1 MENU ▶ [2] ▶ [WB BKT]

2 で補正方向を選択します。

R-B　赤―青

G-M　緑―赤紫

- 各補正方向を組み合わせて設定できます。

3 で補正ステップを設定します。

[OFF] / [3F 2STEP] / [3F 4STEP] / [3F 6STEP]

4 撮影します。

- 1回の撮影で、1つの補正方向に対して3コマの画像を作成します。

こんなときは

補正したホワイトバランスを中心にWBブラケット撮影をしたい

→ WB補正をした状態で、WBブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心としてWBブラケット撮影が行われます。

注意

- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、続けて撮影ができません。

MF ブラケット撮影

1コマごとにピント位置を少しずつ変えて撮影します。
カードには、設定したピント位置、後側、前側にずらした位置の順で連続撮影した画像が記録されます。

1 **MENU ▶ [📷2] ▶ [MF BKT]**

2 **で設定します。**
[OFF] / [5F 1STEP] / [5F 2STEP] / [7F 1STEP] / [7F 2STEP]
補正ステップ　1STEP・2STEP
撮影枚数　5枚/7枚

3 **ボタンを押します。**

4 **MFでピント合わせをし、撮影します。**

- 連写モードでは、一度のシャッターボタンの全押しで、設定したピント位置、後側、前側にずらした位置の順で1コマずつ連続撮影します。単写モードでは、シャッターボタンを押すたびに同様に撮影します。
- 使用されるレンズ、撮影条件により、設定したピント位置に対し前後同じ枚数ではないことがあります。
- 被写体が画面中央にないとき、コントラストが弱いときなどは、前後枚数が片側に偏ることがあります。
- この機能を使用する際には、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

フラッシュ撮影

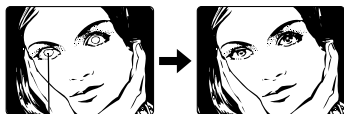
フラッシュモード

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。

オート発光 AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。

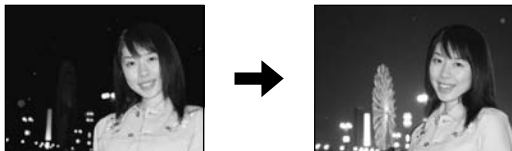
赤目軽減発光

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合など個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

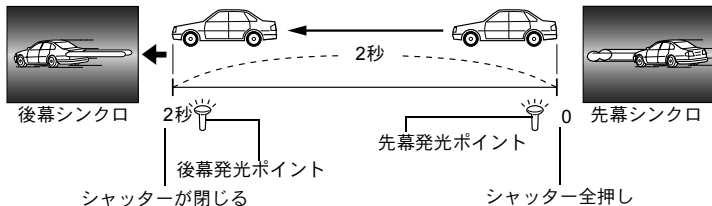
スローシンクロ（先幕シンクロ）⚡SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。シャッター速度が遅いので、背景がブレないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

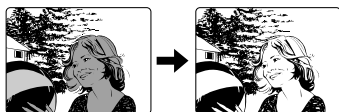
スローシンクロ（後幕シンクロ）⚡SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

シャッター速度が2秒のとき

スローシンクロ（先幕シンクロ）＋赤目軽減発光 ◎SLOW

スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

強制発光 ⚡

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

! 注意

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50やFL-36を使用して、スーパーFP発光モードで撮影してください。

発光禁止 ⊘

フラッシュは発光しません。
発光禁止でも、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。☞「AFイルミネータ」(P 62)

フラッシュ同調速度

内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を変更することができます。☞「同調速度設定」(P 101)

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。メニューの**[内蔵フラッシュ拡張]**（☞ P 101）を**[ON]**に設定すると、フラッシュモードの選択項目に発光比の選択が加わります。
フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：ガイドナンバー
FULL(1/1)	13
1/4	6
1/16	3
1/64	1.5

レンズのF値は以下の式で計算してください。

$$\text{絞り（F値）} = \frac{\text{GN} \times \text{ISO感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

ISO 感度係数

ISO感度	100	200	400	800	1600
ISO感度係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0

露出モードによる使用可能なフラッシュモード

露出モード	スーパーコンパネまたはメニューの表示	フラッシュモード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P A *2	AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*1のとき発光	1/30秒~1/180秒
		オート発光(赤目軽減)			
		強制発光		いつでも発光	60秒~1/180秒
		発光禁止	—	—	—
	SLOW	スローシンクロ(赤目軽減)	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒~1/180秒
	SLOW	スローシンクロ(先幕シンクロ)			
	SLOW2	スローシンクロ(後幕シンクロ)	後幕シンクロ		
	FULL	マニュアル発光(FULL)	先幕シンクロ		
	1/4	マニュアル発光(1/4)			
	1/16	マニュアル発光(1/16)			
	1/64	マニュアル発光(1/64)			
S M		強制発光			
		強制発光(赤目軽減)			
		発光禁止	—	—	—
	SLOW2	強制発光/スローシンクロ(後幕シンクロ)	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒~1/180秒
	FULL	マニュアル発光(FULL)	先幕シンクロ		
	1/4	マニュアル発光(1/4)			
	1/16	マニュアル発光(1/16)			
	1/64	マニュアル発光(1/64)			

*1 専用フラッシュがスーパー FPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で、逆光を判定して発光します。「スーパー FP発光について」(P 47)

*2 夜景＆人物モードでは、AUTO、、、は、設定できません。

3 いろいろな撮影機能

フラッシュモードを設定する

Ⓞ▶ ✥（フラッシュモード）

コントロールダイヤルを回して設定を選びます。

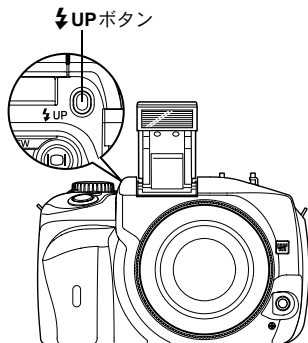
- Ⓞボタンを押すとダイレクトメニューが表示され、ダイレクトメニューの中でも設定できます。
☞「露出モードによる使用可能なフラッシュモード」(P 41)

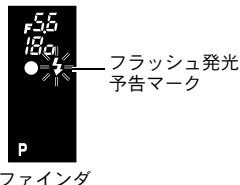
メニューで設定する場合

MENU ▶ [📷2] ▶ [フラッシュ] ▶ 設定項目

内蔵フラッシュを使う

14mm（35mmフィルムカメラ換算28mm）より広角のレンズを使用した場合、フラッシュの光がけられる場合があります。また使用レンズ、距離などの撮影条件によってもけられが発生する場合があります。

1　UP ボタンを押して内蔵フラッシュを起こします。

2　シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

3　シャッターボタンを全押しします。

フラッシュの発光量補正

フラッシュの発光量を調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

MENU ▶ [ ] ▶ [フラッシュ補正]

で補正量を設定します。

注意

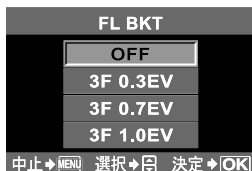
- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光量補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- メニューの**[+ 連動]**が**[ON]**に設定されているときは、露出補正量に加算されます。

フラッシュブラケット撮影

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影します。

MENU ▸ [📷2] ▸ [FL BKT]

で設定します。
[OFF] / [3F 0.3EV] / [3F 0.7EV] / [3F 1.0EV]

- カスタム設定により補正量を変更できます。
  ☞「露出ステップ」(P 100)
- 連写モードでは、1度のシャッターボタンの全押しで3コマを連続して、発光量適正~−発光~＋発光の順に撮影します。単写モードでは、シャッターボタンを押すたびにフラッシュの発光量を変えて撮影します。

専用フラッシュ（別売）について

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてお読みください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL AUTO・AUTO・MANUAL・FP TTL AUTO・FP MANUAL		TTL AUTO・AUTO・MANUAL	TTL AUTO・MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85mm*時） GN28（24mm*時）	GN36（85mm*時） GN26（24mm*時）	GN20 （35mm*時）	GN11	GN22

* 35mmフィルム換算カメラ

❗ 注意

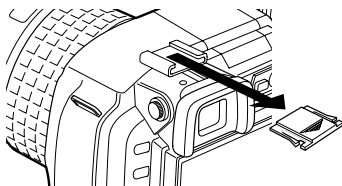
- エレクトロニックフラッシュ FL-40は使用できません。

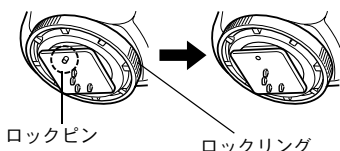
3 いろいろな撮影機能

専用フラッシュを使った撮影

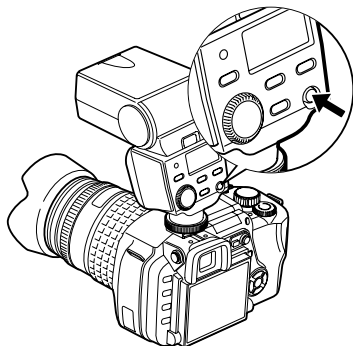
フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は 1/180 秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

5 フラッシュの調光モードを選択します。

- 通常はTTL AUTOの使用をおすすめします。

6 シャッターボタンを半押しします。

- カメラ・フラッシュ間で、ISO 感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。
- ファインダ内で⚡が表示されます。

7 シャッターボタンを全押しします。

ファインダ

⚡点滅：
フラッシュ
充電中

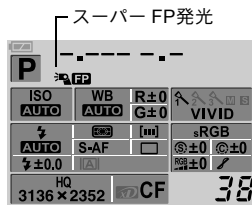
⚡点灯：
フラッシュ
充電完了

注意

- TTL AUTOで撮影する場合、本発光前に調光のためのプリ発光があります。
- TTL AUTOで撮影する場合、ISO感度400以上で被写体が遠い場合は、調光の精度が悪くなります。

スーパー FP 発光について

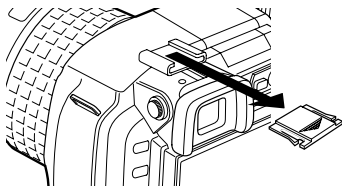
専用フラッシュ FL-50やFL-36ではスーパー FP発光が可能です。スーパー FP発光は通常の発光に比べ、長時間発光を続けます。したがって、通常の発光では使用できない高速のシャッター速度でも撮影できます。
屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

スーパー FP発光

スーパーコンパネ詳細表示のとき

3 いろいろな撮影機能

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュはカメラの撮影モードを**M**にして使用します。使用できる市販のフラッシュの詳細については「使用できる市販のフラッシュは」（☞ P 49）をご覧ください。

1 ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。

2 撮影モードを M にし、絞り値とシャッター速度を設定します。

- シャッター速度は 1/180 秒より低速に設定してください。これより早いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がブレる可能性があります。

3 フラッシュの電源を入れます。

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- フラッシュは常に発光します。 フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。

使用できる市販のフラッシュは

1) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
2) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください（カメラ側の露出補正はフラッシュ撮影においては無効となります）。
3) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35mmフィルム用レンズの焦点距離になります。
4) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

単写／連写

単写 □ 一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。

連写 □ シャッターボタンを押している間、約3コマ/秒で約4枚以上連続撮影できます。ピント、露出は、最初の1コマで固定されます。（S-AF, MF時）

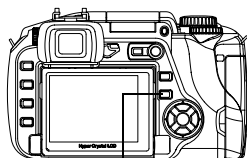
単写／連写を設定する

□（ドライブ）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

□ 単写

□ 連写

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

- □ ボタンで設定するときは、ファインダ内にも情報が表示されます。

スーパーコンパネで設定する場合

ⓞ ▶ ◌：□（ドライブモード）▶ ⓞ

メニューで設定する場合

MENU ▶ [2] ▶ [□/⏲/⏲] ▶ 設定項目

❗ 注意

- **[ノイズリダクション]**（☞ P 79）が**[ON]**の場合、連写はできません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。

セルフタイマーを設定する

（ドライブ）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

12s　12秒セルフタイマー
2s　2秒セルフタイマー

- ボタンで設定するときは、ファインダ内にも情報が表示されます。

12SELF :12秒セルフタイマー
2SELF :2秒セルフタイマー

ファインダ

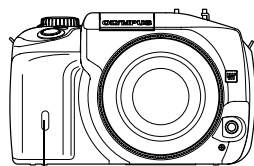
スーパーコンパネで設定する場合

メニューで設定する場合

セルフタイマー撮影をする

シャッターボタンを全押しします。

セルフタイマーランプ

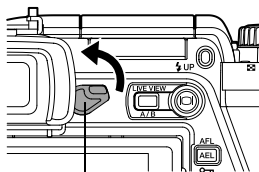
- 撮影されます。
- ピントと露出は、シャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- **12s**の場合：セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- **2s**の場合　：セルフタイマーランプが約 2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、□ボタンを押します。

注意

- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

アイピースシャッター

ファインダから顔を離して撮影するとき、ファインダに光が入らないように、アイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じます。

アイピースシャッターレバー

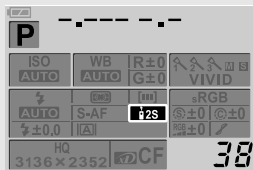
リモコン撮影

別売のリモコン(RM-1)を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターの切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。

リモコンを設定する

（ドライブ）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

0s　すぐにシャッターが切れます。
2s　2秒後に切れます。

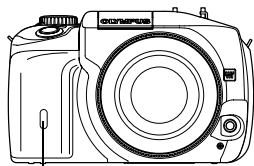
- ボタンで設定するときは、ファインダ内にも情報が表示されます。

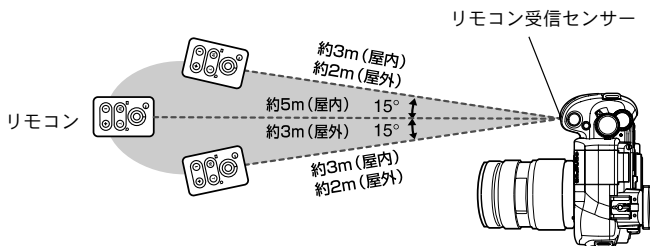
ファインダ

：（ドライブモード）

MENU [] [//] 設定項目

リモコン撮影をする

カメラを三脚などでしっかりと固定し、リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- **0s**の場合 ：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。
- **2s**の場合 ：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない

→ リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ リモコン信号が混信しています。 リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。メニューで他のドライブモードにしてください。

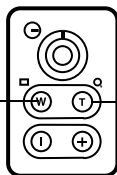
カメラのシャッターボタンを使って撮影したい

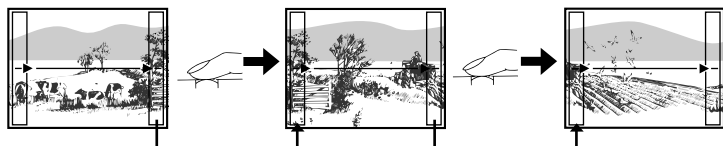
→ リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

注意

- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

モードダイヤルをMにセットし、シャッター速度を[BULB]に設定します。

パノラマ撮影

OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードを使って、パノラマ撮影を簡単に楽しむことができます。被写体の端が重なるように撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Masuter（付属のCD-ROM）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。
最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

- 重なり合う画像の共通部分には、できるだけ目印となる被写体を入れて撮影してください。

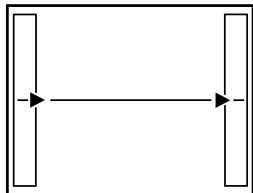
撮影する

1 モードを設定します。☞「シーンモード」(P 19)

- ライブビュー Aモードに切り替わります。

2 ✥ でつなげる方向を指定し、被写体の端が重なるように撮影します。

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

- 被写体が重なるように構図を変えながら撮影します。
- ピント、露出などは1枚目で決定されます。
- 10枚撮り終わると ✋（警告）マークが表示されます。
- 1コマ目の撮影前に OK ボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
- 撮影の途中で OK ボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

注意

- OLYMPUS製のxD-ピクチャーカードをカメラにセットしていないときは、パノラマ撮影はできません。
- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は残りません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

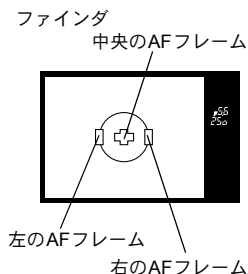
AF フレームの選択

通常はファインダ内の3ケ所のAFフレームで被写体までの距離を測定し、最適なポイントを選択します。1つのAFフレームだけを選択することもできます。

[AUTO]または[▪▪▪]（オート）
3つのAFフレームを使ってピントを合わせます。

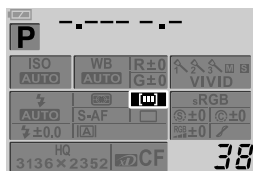
[▪] 左の AF フレームを使ってピントを合わせます。

[▪] 中央の AF フレームを使ってピントを合わせます。

[▪] 右の AF フレームを使ってピントを合わせます。

スーパーコンパネで設定します。

OK ▶ AFフレーム表示 ▶ OK
[AUTO] / [▪] / [▪] / [▪]

メニューで設定する場合

MENU ▶ [📷2] ▶ [▪▪▪] ▶ 設定項目

フォーカスモード　AF

フォーカスモードには以下のモードがあります。

S-AF（シングルAF）　：シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。

C-AF（コンティニュアスAF）：シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。

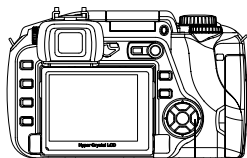
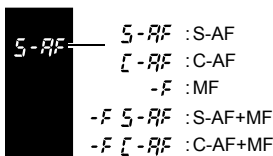
MF（マニュアルフォーカス）：手動でピント合わせをします。

AF（フォーカスモード）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

[S-AF] / [C-AF] / [MF] / [S-AF+MF] / [C-AF+MF]

☞「S-AF（シングルAF）モードでの撮影」（P 59）
「S-AF モードと MF モードの併用（S-AF+MF）」（P 59）
「C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影」（P 60）
「C-AF モードと MF モードの併用（C-AF+MF）」（P 60）
「マニュアルフォーカス（MF）」（P 61）

AFボタン

- **AF** ボタンで設定するときは、ファインダ内にも情報が表示されます。

ファインダ

スーパーコンパネで設定する場合

ⓞ ▶ ◎ ：**AF（フォーカスモード）** ▶ ⓞ

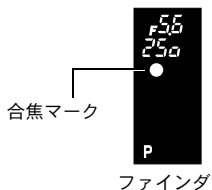
メニューで設定する場合

MENU ▶ **[2]** ▶ **[AF方式]** ▶ **設定項目**

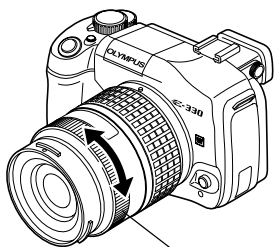
S-AF（シングル AF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

S-AF モードと MF モードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。シャッターボタンを押していないときは、MF動作ができます。

- シャッターを半押ししてAFが合ったら、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。シャッターを半押ししないときも、フォーカスリングを回して微調整できます。

注意

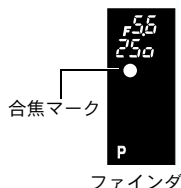
- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押し直すと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

C-AF（コンティニュアス AF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合っても AF フレームは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

ファインダ

C-AF モードと MF モードの併用（C-AF+MF）

あらかじめフォーカスリングでピント合わせをしておいて、シャッターを半押しするとC-AFモードの動作をします。

- シャッターボタンを押している間は、MFモードは動作しません。
- シャッターボタンを押していないときは、MFモードが操作できます。

こんなときは

C-AF モードでも手動でピントの微調整をしたい

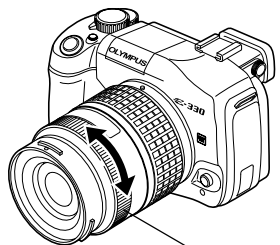
→ AEL/AFLモード設定により、**AEL/AFL**ボタンでC-AFが動作するように設定できます。☞「AEL/AFLモード」(P 98)

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押し直すと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

マニュアルフォーカス（MF）

ファインダをのぞきながら、任意の位置に手動でピントを合わせることができます。

フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。

フォーカスリング

ライブビュー

液晶モニタを使ってピントを合わせることができます。[□]ボタンを押して液晶モニタに被写体が表示されたら、A/Bボタンを押します。☞「ライブビュー」(P 28)

フォーカスリングの回転方向

フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り替えることができます。☞「フォーカスリング」(P 104)

フォーカスエイド

フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。3点のAFフレームを選択している場合は、中央のAFフレームでのピントが選択されます。

AF イルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合います。この機能を使うにはフラッシュを起こしておきます。

1 **MENU ▶ [Ÿ1] ▶ [AFイルミネータ]**

2 **で[ON]か[OFF]を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

レリーズ優先

このカメラはAF作動中・フラッシュ充電中はシャッターが切れませんが、次の設定により、これらの完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。S-AFモード（☞ P 59）とC-AFモード（☞ P 60）で個別にレリーズ優先を設定できます。
[レリーズ優先C]が**[ON]**に設定されていると、1枚目の撮影では動体予測は働きません。

1 **選択しているフォーカスモードによって、次の手順を行ってください。**

S-AF モード
MENU ▶ [Ÿ1] ▶ [レリーズ優先S]

C-AF モード
MENU ▶ [Ÿ1] ▶ [レリーズ優先C]

2 **で[ON]か[OFF]を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

4
ピント合わせの機能

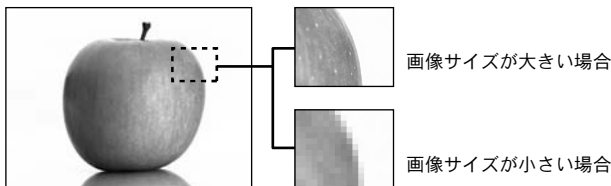
画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像（ピクセル）サイズについては「画質モード一覧」（☞ P 165）の表をご覧ください。

画質モードの種類

画質モードでは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを選択できます。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

<table>
<tr><th rowspan="2">用途</th><th rowspan="2">画像（サイズ）</th><th colspan="5">画質（圧縮率）</th></tr>
<tr><th>非圧縮
1/1</th><th>低圧縮
1/2.7</th><th>高圧縮
1/4</th><th>高圧縮
1/8</th><th>高圧縮
1/12</th></tr>
<tr><td rowspan="2">プリントサイズに合わせて選択</td><td>3136x2352</td><td>TIFF</td><td>SHQ</td><td colspan="3">HQ</td></tr>
<tr><td>2560x1920
1600x1200
1280x960
1024x768</td><td rowspan="2">—</td><td colspan="4" rowspan="2">SQ</td></tr>
<tr><td>小さいプリントやホームページ用</td><td>640x480</td></tr>
</table>

RAW データについて

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。　パソコンで画像として表示するには、OLYMPUS Masterを使います。一般のソフトウェアで表示したり、プリント予約することはできません。また、このカメラで画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。☞「静止画編集」(P 89)

画質モードの選択方法

MENU ▶ [📷1] ▶ [画質モード]

十字ボタンで設定します。
[HQ] / [SQ] / [RAW+SHQ] / [RAW+HQ] / [RAW+SQ] / [RAW] / [TIFF] / [SHQ]

画像サイズと圧縮率を設定する

MENU ▶ [🔧1] ▶ [HQ 設定]
MENU ▶ [🔧1] ▶ [SQ 設定]

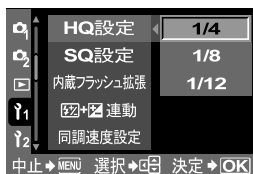
選択している画質モードによって、次の手順を行ってください。

[HQ]

1) 十字ボタンで圧縮率を設定します。
[1/4] / **[1/8]** / **[1/12]**

[SQ]

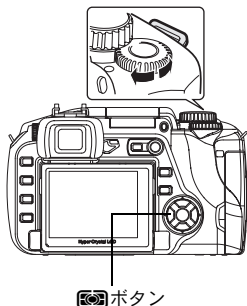
1) 十字ボタンで画像サイズを設定します。
[2560x1920] / **[1600x1200]** / **[1280x960]** / **[1024x768]** / **[640x480]**

2) 十字ボタンで圧縮率を設定します。
[1/2.7] / **[1/4]** / **[1/8]** / **[1/12]**

測光方式を変える — 測光モード

このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

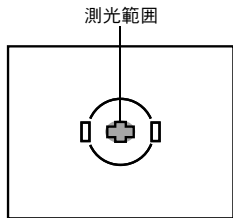
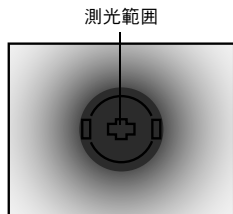
（測光）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

/ / / HI / SH

- ボタンを押して設定するときは、ファインダにも情報が表示されます。

デジタル ESP 測光

画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。被写体が逆光下にあったり、強いスポット光を浴びているなど、中央と周辺に大きな輝度差があるときにも適正な測光ができます。通常はこのモードをおすすめします。AF連動機能をオンにすると、AFでピントを合わせたフレームを中心に測光するパターンが稼動します。

中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

スポット測光

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

HI スポット測光ハイライトコントロール

測光したポイントの露出がオーバーになるように設定します。白い被写体を白く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

SH スポット測光シャドウコントロール

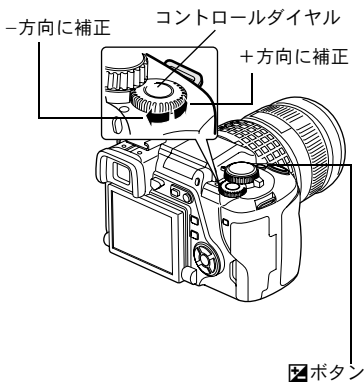
測光したポイントの露出がアンダーになるように設定します。黒い被写体を黒く表現したいときに使います。
測光範囲はスポット測光と同じです。

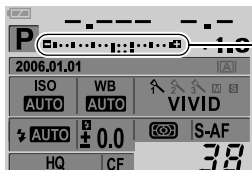
画像の明るさを変える — 露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。

（露出補正）ボタンを押しながら、コントロールダイヤルで補正値を設定します。

- ＋方向に補正：+ 5.0EVまで設定できます。
  −方向に補正：- 5.0EVまで設定できます。
- 補正ステップは1/3EV、1/2EV、1EVから選択できます。
  ☞「露出ステップ」(P 100)
- ボタンを押さずに、コントロールダイヤルだけで、露出補正ができるように設定することもできます。
  ☞「コントロールダイヤルのカスタマイズ」(P 102)

5
露出・色・画像

露出補正インジケータの見かた

スーパーコンパネ

1/3EVステップを選択したときの
露出補正インジケータ

1/3EV

1/2EVステップを選択したときの
露出補正インジケータ

1/2EV

- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているときは、インジケータの左右端に赤い◀▶が表示されます。
- 露出補正が0のときは、露出補正インジケータは表示されません。

メニューで設定する場合

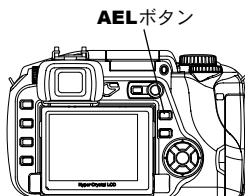
MENU ▶ [📷1] ▶ [露出補正] ▶ [露出補正]を設定

注意

- **M**、SCENEでは、露出補正はできません。

あらかじめ露出を固定する —AE ロック　AEL

AELボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL**ボタンを押して露出のみ固定することができます。ライブビューBモードのときはAEロックは使用できません。

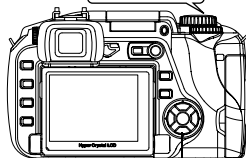
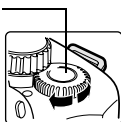
測光値を固定したいところでAELボタンを押すと、露出が固定されます。AELボタンを押している間は露出が固定されますので、そのままシャッターボタンを押します。

ファインダ

- **AEL**ボタンを離すと、AEロックが解除されます。
- カスタム設定により、**AEL**ボタンから指を離しても、AEロックが解除されないように設定することもできます。☞「AEL/AFLモード」(P 98)

明るさに合わせた設定 —ISO 感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。

ISO ボタンを押して、コントロールダイヤルで ISO 感度を設定します。

- **[ISO感度拡張]**を**[ON]**にすると、より高感度まで設定できます。（☞ P 100）

画像の色合いを調整する — ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。
デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。この機構をホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

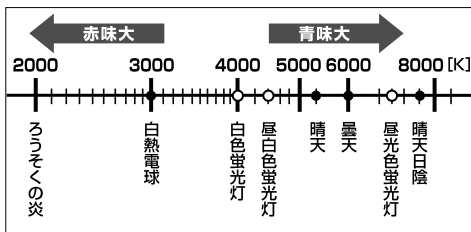
オートホワイトバランス
自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。
通常はこのモードをお使いください。ただし、画面に白に近い色がまったくない場合は、ホワイトバランスが正しく設定されないことがあります。このようなときは、プリセットホワイトバランスやワンタッチホワイトバランスを設定してください。

プリセットホワイトバランス
天気、電球・蛍光灯別に7種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。さらにプリセットホワイトバランスを積極的に使うことで、様々な色調を楽しむこともできます。

カスタムホワイトバランス
プリセットホワイトバランスの値の1つを、あらかじめ設定したい色温度に変更して使用することができます。
☞「オート/プリセット/カスタムホワイトバランスの設定」(P 73)

ワンタッチホワイトバランス
カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。
☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P 75)

色温度について

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

こんなときは

フラッシュを使うとき

→ フラッシュを使って撮影するときは、オートホワイトバランスで撮影することをおすすめします。
プリセットホワイトバランスで撮影するときは、6000Kに設定してください。また、フラッシュを使った撮影では、条件によって色温度が変わります。撮影したら再生して色味を確認してください。

注意

- 各光源として設定された色温度は目安です（実際の晴天が 5300K、蛍光灯が4000Kにしかならないということではありません）。

オート / プリセット / カスタムホワイトバランスの設定　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

WB（ホワイトバランス）ボタンを押して、コントロールダイヤルで設定します。

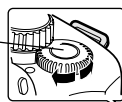
AUTO / ☀ / ☁ / ⌂ / 💡 / 蛍1 / 蛍2 / 蛍3 / ⊒ / CWB

- **CWB**（カスタムホワイトバランス）は**CWB**を選び、±（露出補正）ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して設定します。

WBボタン　±ボタン

ファインダ

-A-:オートホワイトバランス
- - :蛍1 / 蛍2 / 蛍3
c 1 :カスタムホワイトバランス
-0-:ワンタッチホワイトバランス

WBをAUTO以外に設定すると表示されます。

WBモード	適した撮影シーン
AUTO	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
☀ 5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
☁ 6000K	曇天の日に屋外で撮るとき（フラッシュを使用して撮るとき）
⌂ 7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
💡 3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
蛍1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
⊒	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定」(P 75)
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は3000Kに設定されています。設定により表示は変わります。

スーパーコンパネで設定する場合

ⓞ▶ ◌：WB（ホワイトバランス）

メニューで設定する場合

ⓞ ▶ MENU ▶ [📷1] ▶ [WBモード] ▶ 設定項目

こんなときは

白くないものまで白くなった

→ オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。
あらかじめ**[ボタン機能]**を**[ワンタッチWB]**に設定しておきます。（P 103）

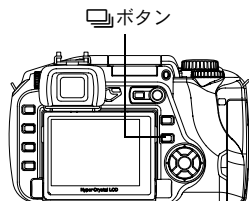
1　カメラを白い紙に向けます。

- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2　ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3　OKボタンを押します。

- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

シャッターボタンを押したら、[不適切なデータです 撮り直してください] と表示された

→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッタースピードなどの撮影条件を変えて、再度、手順1からやり直してください。

WB 補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

1 **MENU ▶ [📷] ▶ [WBモード]**

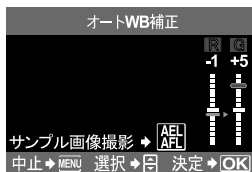
2 **で WB 補正したいホワイトバランスモードを選択します。**

3 **で補正方向を選択します。**

R-B　赤—青
G-M　緑—赤紫

- 各補正方向を組み合わせて設定できます。

R-B 方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、を押すたびに赤味がかり、を押すたびに青味がかった画像になります。

G-M 方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、を押すたびに、緑の色味が増し、を押すたびに赤紫がかった画像になります。

- R、B、G、Mの各色方向で、それぞれ7段階の補正が可能です。

4 **ボタンを押します。**

- 補正値が決定されます。

こんなときは

補正したホワイトバランスを確認したい

→手順 3 で補正値を設定した後、試し撮りをするために被写体にカメラを向けます。**AEL**ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で、撮影したサンプル画像が表示されます。

すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい

→「全WBモード補正」（P 101）をご参照ください。

仕上がりモード

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。

MENU ▶ [📷1] ▶ [仕上がり]

仕上がり具合に合わせて調整できるパラメータが分類されています。

- **コントラスト/シャープネス/彩度**
  - [1VIVID]　：色鮮やかに仕上げます。
  - [2NATURAL]：自然な色合いに仕上げます。
  - [3FLAT]　：素材性を重視した仕上がりになります。
- **コントラスト/シャープネス/フィルター効果/調色**
  - [モノトーン]：モノクロ調に仕上げます。
  - [セピア]　：セピア調に仕上げます。

それぞれのパラメータの内容は次の通りです。

[コントラスト]　：明暗の差
[シャープネス]　：鮮鋭さ
[彩度]　：色の鮮やかさ
[フィルター効果]：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。

[N:無し]　：通常の白黒画像になります。
[Ye:黄]　：自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
[Or:オレンジ]：青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
[R:赤]　：青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
[G:緑]　：赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。

[調色]：白黒画像に色味をつけます。

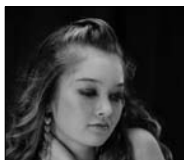
[N:無し]　：通常の白黒画像になります。
[S:セピア]：セピア
[B:青]　：青味
[P:紫]　：紫味
[G:緑]　：緑味

調整したパラメータは各仕上がり項目ごとに記録されます。スーパーコンパネでは仕上がりの項目を選択することができます。

階調

標準階調以外に2種類の階調を選択できます。

　ハイキー（H）：明るい被写体の階調を広げます。

　ローキー（L）：暗い被写体の階調を広げます。

ハイキー

ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー

シャドウ部の多い被写体に最適です。

MENU ▶ [📷1] ▶ [階調]

[ハイキー] / [標準] / [ローキー]

- 通常は**[標準]**に設定してください。

注意

- 標準以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

MENU ▶ [🔧2] ▶ [シェーディング補正]

[OFF] / [ON]

注意

- テレコンバージョンレンズやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。

ノイズリダクション ― 長秒時の画像のノイズを軽減する

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。**[ノイズリダクション]**を**[ON]**に設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。

OFF

ON

MENU ▸ [📷1] ▸ [ノイズリダクション]

[OFF] / [ON]

[ON]を選択します。

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内でbusyと表示されます。

注意

- SCENEモードを🌃に設定していると、**[ノイズリダクション]**は**[ON]**に固定されます。
- **[ノイズリダクション]**の設定が**[ON]**のとき、連写はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

記録する画像の色空間を設定する — カラー設定

撮影した画像を、モニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。☞「ファイルネーム」(P 106)

```
Pmdd0000.jpg
└─┬─P : sRGB
  └─_ : Adobe RGB
```

[sRGB]　Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB]　Adobe Photoshopで設定できる色空間。

MENU ▸ [Y2] ▸ [カラー設定]
[sRGB]か**[Adobe RGB]**を選択します。

低振動モード

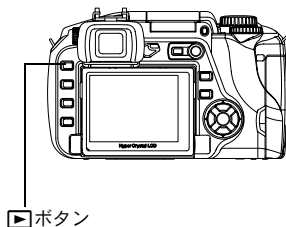
ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラブレを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

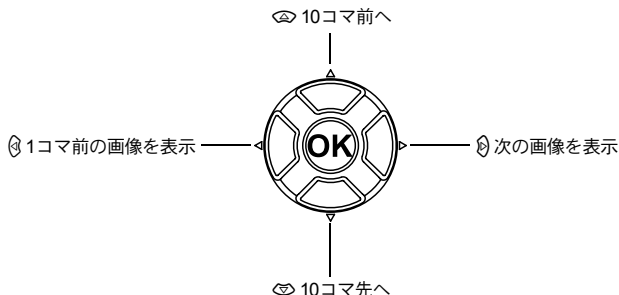
MENU ▸ [○2] ▸ [低振動モード]
[OFF]か**[1秒]~[30秒]**を選択します。

1 コマ再生

画像を見るための基本的な手順は、以下の通りです。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1の操作を行って、各再生機能を操作します。

1 (再生) ボタンを押します。

- 1分以上何も操作をしないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その後何も操作をしないと自動的に電源が切れます。(初期設定は4時間) もう一度電源を入れなおしてください。

最後に撮影した画像が表示されます。

2 で表示したい画像を選択します。

- 再生を終了するときは、再度、ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

クローズアップ再生

1コマ再生している画像を拡大表示します。
画像の細部の確認に便利です。

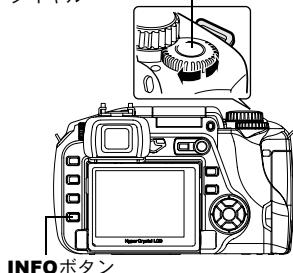
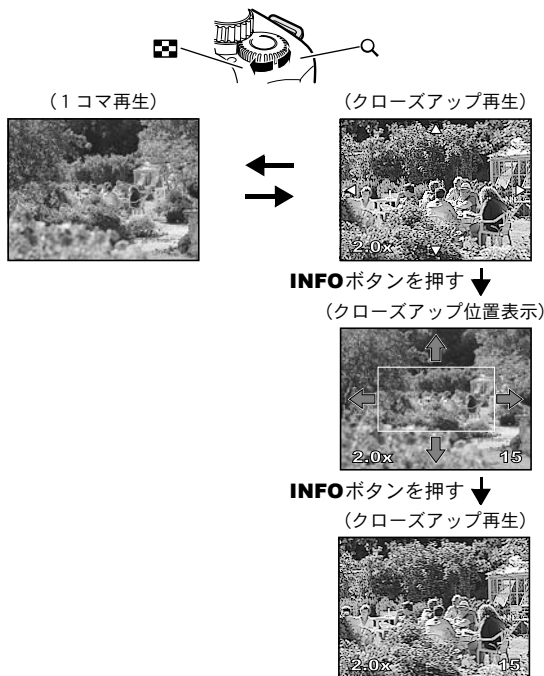
コントロールダイヤルを 🔍 側に回すたびに 2~14 倍と拡大倍率が変化します。

- ▦ 側にコントロールダイヤルを回すたびに、画像が前のサイズに戻ります。

（1 コマ再生）

（クローズアップ再生）

✥を押して、クローズアップ位置を変更できます。

INFOボタンを押す ↓

（クローズアップ位置表示）

✥を押して、クローズアップ位置の表示を移動できます。

INFOボタンを押す ↓

（クローズアップ再生）

✥を押して、クローズアップのままコマ送りできます。

ライトボックス表示

クローズアップ再生の画像と、他の画像を左右に表示して見ることができます。ブラケット撮影などの画像の比較に便利です。

1 **1コマ再生中に、コントロールダイヤルを回してクローズアップ再生にします。**

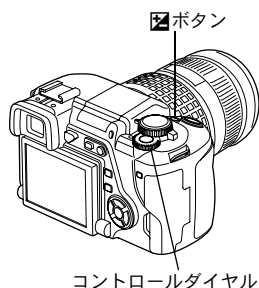
- コントロールダイヤルで拡大倍率を選択します。

2 **ボタンを押します。**

- 最初に表示していたコマが画面の左半分に表示され、次のコマが同じ拡大倍率でクローズアップされて、右半分に表示されます。

3 **で画面を選択します。**

- 画像のプロテクト・消去・コピーができます。
- ボタンを押すと左の基準画像が右の選択した画像に切り替わります。
- **INFO** ボタンを押すと、ボタンでクローズアップ位置を移動できます。

4 **ボタンを押すと1コマのクローズアップ再生に戻ります。**

注意

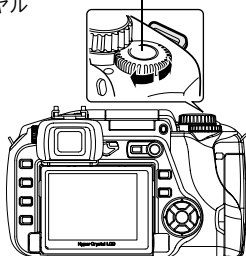
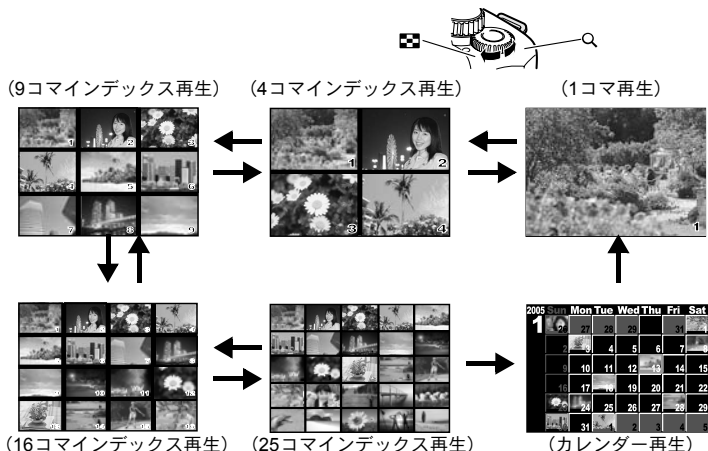
- ライトボックス表示中は拡大倍率の変更はできません。

インデックス再生 / カレンダー再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1 コマ再生中に、コントロールダイヤルを ⊞ 側に回すたびにコマ数が 4、9、16、25 コマと変化します。

- ◁ ：前のコマへ移動
- ▷ ：次のコマへ移動
- △ ：上のコマへ移動
- ▽ ：下のコマへ移動

- 1 コマ再生に戻るにはコントロールダイヤルを 🔍 側に回します。

カレンダー再生について

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。
✣で表示した画像を選択し Ⓞ ボタンを押すと、選択した画像が1コマ再生になります。

情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

選択したい情報が表示されるまで、INFO（情報表示）ボタンを繰り返し押します。

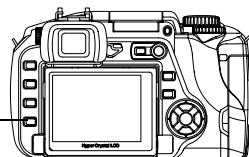
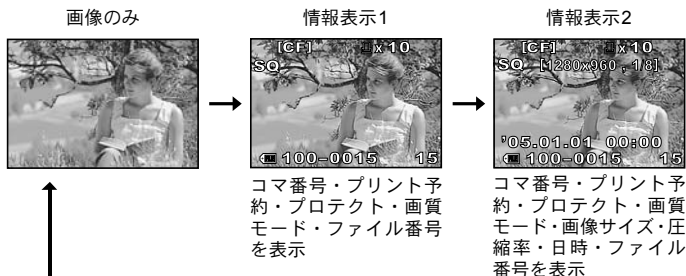
- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ情報が表示がされます。

画像のみ

情報表示1

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・ファイル番号を表示

情報表示2

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号を表示

＊ヒストグラムの活用
ヒストグラムの右端付近が著しく突出した場合は、白トビの可能性があり、左端付近が著しく突出した場合は、黒つぶれの可能性があります。
露出を補正するか、再度撮影してください。

総合表示

ヒストグラム＊

ハイライト表示

撮影情報

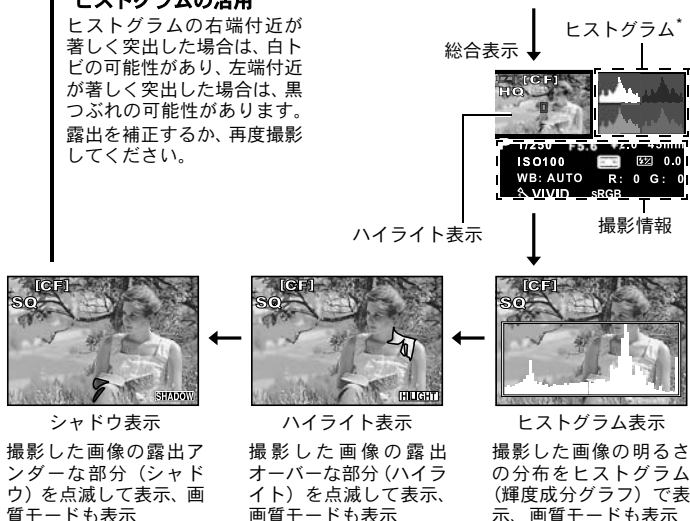
ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示、画質モードも表示

ハイライト表示

撮影した画像の露出オーバーな部分（ハイライト）を点滅して表示、画質モードも表示

シャドウ表示

撮影した画像の露出アンダーな部分（シャドウ）を点滅して表示、画質モードも表示

画像を連続自動再生する（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25コマから選択できます。

1 **MENU ▶ [▶] ▶ [自動再生]**

2 **で設定します。**

[1] 1コマ表示
[4] 4コマ表示
[9] 9コマ表示
[16] 16コマ表示
[25] 25コマ表示

3 **ボタンを押すと自動再生がスタートします。**

4 **ボタンを押すと停止します。**

4を選択したとき

注意

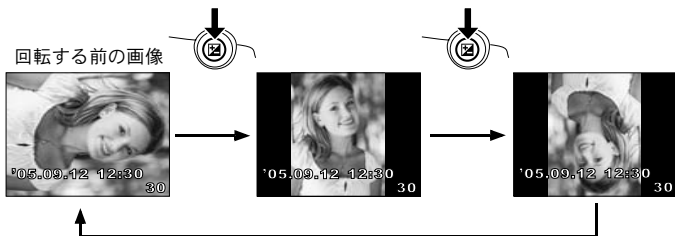
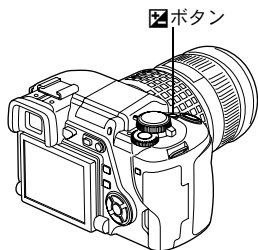
- 自動再生を30分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

回転再生

撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。

MENU ▸ [▶] ▸ [回転再生] ▸ [ON]

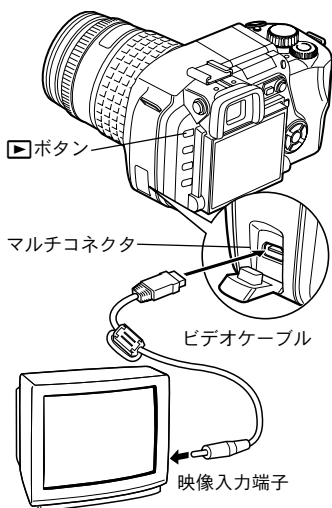
[OFF] / [ON]

- ONに設定すると、縦位置で撮影した画像を再生したときに自動的に回転して表示します。また、ボタンを押して画像を回転して表示することもできます。
- 回転表示した画像は、カードに記録されます。

テレビで画像を再生する

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。**

2 **テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。**

3 **カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。**

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「TVにつなぐ前に」(P 109)
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

静止画編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。プリント可能なファイルはJPEGとTIFFです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使って望みの画質のJPEGファイルに編集しましょう。

RAW データ形式で記録した画像の編集

RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFFやJPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。編集するときに他の設定を使いたい場合、あらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG/TIFF 形式で記録した画像の編集

[モノクロ作成] 白黒に変換します。
[セピア作成] セピア色に変換します。
[赤目補正] フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。
[鮮やかさ調整] 画像の色をより鮮やかにします。
[リサイズ] 画像サイズを1280×960、640×480、または320×240に変換します。

RAWデータ形式の画像

JPEG/TIFFデータ形式の画像

注意

- TIFFの画像はSHQの画像として保存されます。

1 **MENU ▸ [▶] ▸ [編集]**

2 **◁▷で画像を選択します。OKボタンを押します。**

- 画像のデータ形式をカメラが認識します。
- 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
- RAW+JPEGで記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

3 **画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集するデータを選択し、各設定項目の手順を行ってください。**

JPEG/TIFFデータ形式の画像を編集する場合	RAWデータ形式の画像を編集する場合
[モノクロ作成] / **[セピア作成]** / **[赤目補正]** / **[鮮やかさ調整]** / **[リサイズ]**	RAW編集による画像はカメラの設定に基づいて生成されます。目的に合わせてカメラの設定をしてから実行してください。

- 編集した画像は、元の画像とは別の画像として保存されます。

注意

- **[RAW]**または**[TIFF]**で記録した画像は赤目補正できません。
  画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。
- 次の場合はリサイズできません。
  RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- 撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

画像のコピー

xD-ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。

全コマコピー

1 **MENU ▶ [▶] ▶ [全コマコピー]**

2 **▷を押します。**

3 **△▽で[実行]を選択します。**

4 **Ⓞを押します。**

全コマコピー 【CF➔xD】
実行
中止
中止➔MENU 選択➔△▽ 決定➔OK

選択コマのコピー

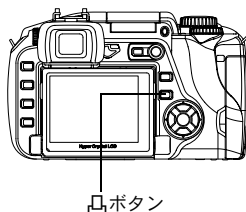
1 **コピーしたい画像を表示して、Ⓞ ボタンを押します。**

- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度Ⓞボタンを押します。

2 **◁▷△▽ を押してコピーしたい次の画像を表示して、Ⓞボタンを押します。**

3 **コピーする画像を選択し終えたら、凸（コピー）ボタンを押します。**

4 **△▽で[実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。**

- コピーを終了するには **MENU** ボタンを押します。
- インデックス再生中でも操作できます。

1 コマコピー

1 **コピーしたい画像を表示して、凸（コピー）ボタンを押します。**

2 **△▽で[実行]を選択し、Ⓞボタンを押します。**

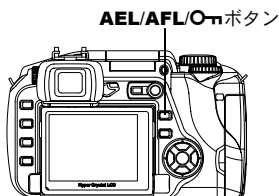
画像にプロテクトをかける — 誤消去防止 O┳

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

プロテクトをかけたい画像を再生して、AEL/AFL/O┳（プロテクト）ボタンを押します。

- 画面にO┳が表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生しAEL/AFL/O┳ボタンを押します。

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。（☞ P 156）
- プロテクトされた画像は回転再生できません。

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。 画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。 大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける—誤消去防止」(P 92)

1 コマ消去

1 消去したい画像を再生します。

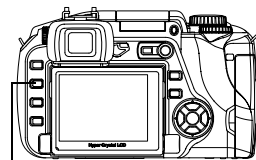
2 （消去）ボタンを押します。

3 で[実行]を選択し、ボタンを押します。

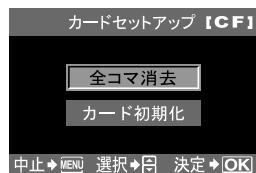
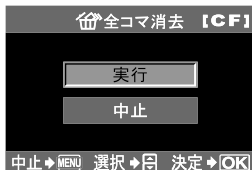
ボタン

こんなときは

画像をすぐに消去したい

→ **[ワンプッシュ消去]**（P 104）を設定すると、ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

全コマ消去

1 MENU ▸ [] ▸ [カードセットアップ]

2 で[全コマ消去]を選択します。ボタンを押します。

3 ⊗⊗で[実行]を選択し、㊀ボタンを押します。
- 全コマ消去が実行されます。

選択コマ消去

1コマ再生またはインデックス再生で、複数画像を選択して一度に消去することができます。

1 消去したい画像を表示して㊀ボタンを押します。
- 画像が選択され赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度㊀ボタンを押します。
- インデックス再生時は、⊗を押して消去したい画像を選択して、㊀ボタンを押します。

2 ⊗を押して消去したい次の画像を表示して、㊀ボタンを押します。

3 消去する画像を選択し終えたら、⊗（消去）ボタンを押します。

4 ⊗⊗で[実行]を選択し、㊀ボタンを押します。

実行優先設定

[⊗2]メニューの**[実行優先設定]**（P 104）で、初期設定のカーソルの位置を**[実行]**に設定することができます。

カスタムリセット設定

このカメラでは、設定を変更した機能は、電源を切ってもリセットされません。ただし、**[リセット]**により出荷時の設定に戻したり、あらかじめリセット内容を2通り登録できる**[リセット1]**・**[リセット2]**が備えられています。

MENU ▸ [📷1] ▸ [カスタムリセット設定]

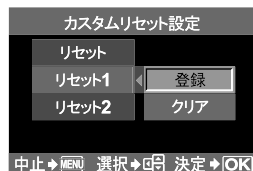
[リセット] / [リセット1] / [リセット2]

• すでに登録している場合、**[リセット1]** / **[リセット2]**の選択肢には**[登録]**と表示されます。

リセット内容の登録先

1 [リセット1] / [リセット2]いずれに登録するかを選択し、▷ボタンを押します。

2 [登録]を選択し、OKボタンを押します。

• 登録を解除する場合は **[クリア]** を選択します。

リセット操作

[リセット1]または**[リセット2]**の登録内容にリセットしたり、出荷時の設定に戻します。

[リセット] カメラを出荷時の設定に戻します。
[リセット1] / **[リセット2]**
登録した内容にリセットします。

1 [リセット] / [リセット1] / [リセット2]いずれかを選択し、OKボタンを押します。

2 △▽で[実行]を選択し、OKボタンを押します。

登録可能な機能と初期設定にリセットできる機能

機能	初期設定	カスタムリセットの登録可否	マイモードへの登録可否
仕上がり	VIVID	✓	✓
階調	標準	✓	✓
画質モード	HQ	✓	✓
露出補正	±0	✓	✓
ノイズリダクション	OFF	✓	—
WBモード	オート	✓	✓
ISO感度	オート	✓	✓
測光	ESP	✓	✓
フラッシュモード	オート発光*1	✓	✓
□/▯/⏱	□	✓	✓
AF方式	S-AF	✓	✓
[···]	オート	✓	✓
AE BKT	OFF	✓	✓
WB BKT	OFF	✓	✓
FL BKT	OFF	✓	✓
MF BKT	OFF	✓	✓
低振動モード	OFF	✓	—
再生モード	1コマ再生（情報表示なし）	—	—
ISO感度ステップ	1/3EV	✓	—
ISO感度拡張	OFF	✓	—
ISOリミッター	OFF	✓	—
露出ステップ	1/3EV	✓	—
全WBモード補正	±0	—	—
HQ設定	1/8	✓	—
SQ設定	1280 x 960, 1/8	✓	—
内蔵フラッシュ拡張	OFF	✓	—
⚡+⚡連動	OFF	✓	—
同調速度設定	1/180	✓	✓
ライブビュー拡張	OFF	✓	✓
ダイヤル設定	**Ps***1	✓	—
AEL/AFLモード	mode1*2	✓	—
AEL/AFL MEMO	OFF	✓	—
AEL測光設定	測光モードに連動	✓	—
ワンプッシュ消去	OFF	✓	—

機能	初期設定	カスタムリセットの登録可否	マイモードへの登録可否
RAW+JPEG消去	RAW+JPEG	✓	—
ボタン機能	//	✓	—
マイモード設定	—	✓	—
フォーカスリング		✓	—
AFイルミネータ	ON	✓	✓
レンズリセット	ON	—	—
レリーズ優先S	OFF	✓	✓
レリーズ優先C	ON	✓	✓
罫線表示	OFF	✓	—
日時設定	2006.01.01	—	—
記録カード選択	CF	—	—
ファイルネーム	オート	—	—
ファイルネーム編集	OFF	—	—
モニタ調整	0	✓	—
（言語選択）	日本語	—	—
ビデオ出力	NTSC	—	—
ビープ音	ON	✓	—
撮影確認	OFF	✓	—
スリープ時間	1分	✓	—
自動電源OFF	4時間	—	—
ボタンON保持時間	8秒	—	—
起動画面	OFF	—	—
パネル配色	配色1	—	—
実行優先設定	中止優先	—	—
USB接続モード	オート	—	—
カラー設定	sRGB	✓	—
シェーディング補正	OFF	✓	✓
ピクセルマッピング	—	—	—
クリーニングモード	—	—	—
/	DIAL	—	—
バージョン	—	—	—

✓ : 登録可　— : 登録不可

[リセット1] / **[リセット2]**の登録内容にリセットしたときは、現在使用している設定が保持されます。初期設定には戻りません。

*1:設定している露出モードによって、初期設定が変わります。

*2:設定しているフォーカスモードによって、初期設定が変わります。

AEL/AFL モード

シャッターボタンでオートフォーカス動作や測光を行う代わりに、**AEL**ボタンを押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。以下のような使い方ができます。

- シャッターを切る構図とは違うところでピントを合わせたい。
- シャッターを切る構図とは違うところで測光して露出を固定したい。

シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。

MENU ▶ [ƴ1] ▶ [AEL/AFL モード]

[S-AF] / **[C-AF]** / **[MF]**

[S-AF] mode1からmode3のうち、いずれかを選択します。

[C-AF] mode1からmode4のうち、いずれかを選択します。

[MF] mode1からmode3のうち、いずれかを選択します。

S-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	固定	固定	—	—	—	固定
mode2	固定	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	固定	—

C-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	ピント 合わせ開始	固定	固定	—	—	固定
mode2	ピント 合わせ開始	—	固定	固定	—	固定
mode3	—	固定	固定	—	ピント 合わせ開始	—
mode4	—	—	固定	固定	ピント 合わせ開始	—

MF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AELボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode1	—	固定	—	—	—	固定
mode2	—	—	—	固定	—	固定
mode3	—	固定	—	—	S-AF	—

その他の機能設定

AEL/AFL MEMO

AEL（AEロック）ボタンを押すと露出の固定と保持ができます。

MENU ▸ [🔧1] ▸ [AEL/AFL MEMO]

- **[ON]** ：**AEL** ボタンを押すと露出を固定して保持します。もう一度押すと保持を解除します。
- **[OFF]** ：**AFL** ボタンを押している間だけ露出を固定します。

AEL 測光モード

AEL（AEロック）ボタンを押して露出を固定するときの測光方式を設定します。

MENU ▸ [🔧1] ▸ [AEL 測光モード]

[オート] / [◙] / [⊡] / [⊡HI] / [⊡SH]

- **[オート]**は**[測光]**モードで選択されているモードで測光します。

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り替えます。

MENU ▸ [🔧1] ▸ [露出ステップ]

[1/3EV] / [1/2EV] / [1EV]

ISO 感度ステップ

ISO感度の補正ステップを切り替えます。

MENU ▸ [🔧1] ▸ [ISO 感度ステップ]

[1/3EV] / [1EV]

ISO 感度拡張

ONに設定すると、ISO 100~400に加えてISO400~1600が使えます。

MENU ▸ [🔧1] ▸ [ISO 感度拡張]

[OFF] / [ON+NF] / [ON]

- **[ISO感度拡張]**を**[ON+NF]**に設定しているとノイズが少なくなりますが、撮影時間が通常より長くなります。

ISO リミッター

ISO感度の上限を設定することができます。ISO設定で感度を固定していても、**[ISOリミッター]**で設定した上限以上の値にはなりません。

MENU ▶ [Ⱡ1] ▶ [ISO リミッター]
[OFF] / **[100]** / **[200]** / **[400]** / **[800]**

全 WB モード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

MENU ▶ [Ⱡ1] ▶ [全 WB モード補正]
[ALL SET] すべてのWBモードを一括して同じ値に補正します。
[ALL CLEAR] すべてのWB補正値を一括して0にします。

[ALL SET] を選択した場合
1) ◁▷ で補正方向を選択します。
R-B 赤―青 / G-M 緑―赤紫
2) △▽ で補正します。「WB 補正」（☞ P 76）
• 補正したホワイトバランスを確認できます。

[ALL CLEAR] を選択した場合
1) △▽ で **[実行]** を選択します。

内蔵フラッシュ拡張

内蔵フラッシュを、固定した発光量で発光させることができます。**[内蔵フラッシュ拡張]**を**[ON]**に設定するとフラッシュモードの設定項目にFULL、1/4、1/16、1/64発光の選択が加わります。

MENU ▶ [Ⱡ1] ▶ [内蔵フラッシュ拡張]
[ON] / **[OFF]**

同調速度設定

内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を、1/60から1/180までの間で設定できます。

MENU ▶ [Ⱡ1] ▶ [同調速度設定]
[1/60] / **[1/180]**
• 市販のフラッシュの同調速度はフラッシュの取扱説明書をお読みください。

ライブビュー拡張

夜景や暗いところでライブビュー機能を使うと、液晶モニタで見えづらい場合があります。液晶モニタに被写体を表示させたいときは**[ON]**に設定します。

MENU ▶ [Ÿ1] ▶ [ライブビュー拡張]
[ON] / [OFF]
- ライブビュー拡張で被写体を表示させた場合、通常より画質が落ちます。

コントロールダイヤルのカスタマイズ

コントロールダイヤルの機能はお買い上げ時は次のように設定されています。

P プログラム撮影時

Psプログラムシフト：ダイヤルを回して設定します。
露出補正　　　　　：（露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

M マニュアル撮影時

シャッター速度　　：ダイヤルを回して設定します。
絞り値（F値）　　：（露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

機能の割り当てを逆にすることができます。

P コントロールダイヤルだけで、露出補正できます。
M コントロールダイヤルだけで、絞りを設定できます。

MENU ▶ [Ÿ1] ▶ [ダイヤル]
[P] / [M]

[P] を選択した場合

[Ps] コントロールダイヤルでプログラムシフトをします。
[露出補正] コントロールダイヤルで露出補正値を設定します。

[M] を選択した場合

[シャッタ速度] コントロールダイヤルでシャッター速度を設定します。
[絞り] コントロールダイヤルで絞り値を設定します。

ボタン機能

ボタンを登録により別の機能に置き換えることができます。

MENU ▶ [] ▶ [ボタン機能]

[//]

「連写/リモコン/セルフタイマー」の設定として機能します。(出荷時の設定)
「単写／連写」(P 50)、「セルフタイマー撮影」(P 51)、「リモコン撮影」(P 53)

[ワンタッチWB]

ワンタッチホワイトバランスボタン(P 75)

[試し撮り撮影]

ボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、画像カードに記録することなく液晶モニタで画像の確認ができます。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[マイモード撮影]

ボタンを押している間、**[マイモード設定]**で登録した設定内容で撮影することができます。「マイモード設定」(下記参照)

[プレビュー] / [プレビュー B](電子式)

ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。
「プレビュー機能」(P 30)

マイモード設定

2通りの撮影設定を登録することができます。メモ撮影用など、一時的に設定を変更して撮影したいときに便利です。**[マイモード設定]**のどちらを使うかあらかじめメニューで設定しておきます。マイモードは、**[ボタン機能]**を**[マイモード撮影]**に設定し、使用するときはボタンを押しながら撮影します。

MENU ▶ [] ▶ [マイモード設定]

[マイモード1] / [マイモード2]

- すでに登録している場合、上記の選択肢には**[登録]**と表示されます。

登録する

[登録]を選択してボタンを押します。

- 現在の設定がカメラに登録されます。
- 登録を解除するには**[クリア]を選択します。**

実行する

[マイモード1]または**[マイモード2]**を選択してボタンを押します。

- **[実行]**を選択してボタンを押すと、使用できるマイモードが設定されます。

レンズリセット

カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

MENU ▶ [1] ▶ [レンズリセット]
[OFF] / **[ON]**

フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り替えることができます。

MENU ▶ [1] ▶ [フォーカスリング]
[↻] / [↺]

実行優先設定

「画像の消去」や「カードの初期化」などの画面で、カーソルの初期位置を **[実行]** **[中止]**のどちらにするかを選択できます。

MENU ▶ [2] ▶ [実行優先設定]
[実行優先] / **[中止優先]**

ワンプッシュ消去

（消去）ボタンを押して、すぐに画像を消去するように設定します。

MENU ▶ [1] ▶ [ワンプッシュ消去]

[OFF] （消去）ボタンを押すと消去を実行するかどうかを確認する画面が表示されます。
[ON] （消去）ボタンを押すとすぐに消去が実行されます。

RAW ＋ JPEG 消去

RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定できます。1コマ消去を行うときのみ有効な機能です。

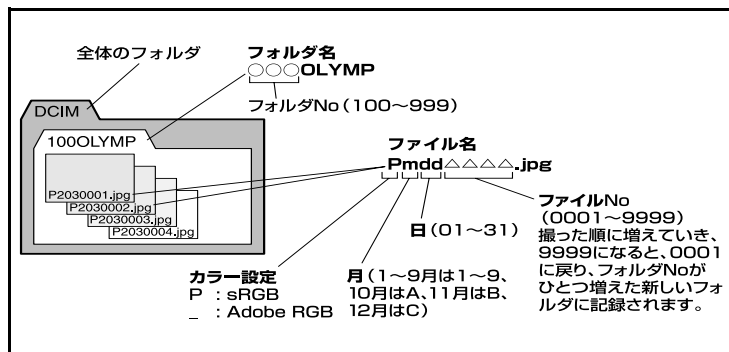
MENU ▶ [ỉ1] ▶ [RAW+JPEG 消去]

[JPEG] JPEGの画像を消去してRAWのみ残します。
[RAW] RAWの画像を消去してJPEGのみ残します。
[RAW+JPEG] 同時に両方を消去します。

! 注意

- この機能は、1コマ消去する場合にのみ有効です。全コマ消去や選択コマ消去の場合は、この設定に関係なくRAW、JPEG両方とも同時に消えます。

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときにファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

MENU ▶ [ⅰ2] ▶ [ファイルネーム]

[オート] カードを入れ換えても、ファイル No は通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNoと重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNoに続いた番号が付けられます。

[リセット] 新しいカードを入れたときは、フォルダNoは100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo.に続けて番号が付けられます。

- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

ファイルネーム編集

画像のファイル整理に便利なようにファイルネームの一部を変更できます。

[sRGB] か [Adobe RGB] を選択します。
（☞ P 80）

MENU ▶ [ↄ2] ▶ [ファイルネーム編集]

　△▽で先頭の文字を入力します。▷を押して次の項目に進み、△▽で2番目の文字を入力します。

撮影後すぐに画像を確認する — 撮影確認

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

MENU ▶ [ↄ2] ▶ [撮影確認]

[OFF]	記録中の画像は表示されません。
[1秒]~[20秒]	画像を表示する時間を指定します。 1秒刻みで設定することができます。

ビープ音を設定する

ボタンを押したときにカメラが発するビープ音をオン/オフすることができます。

MENU ▶ [ↄ2] ▶ [ビープ音]

　[OFF] / **[ON]**

液晶モニタの明るさを変える — モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

MENU ▶ [ↄ2] ▶ [モニタ調整]

　△▽で明るさを調整します。

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。**[スリープ]**では、スリープモードに入るまでの時間を設定することができます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

MENU ▶ [Ỷ2] ▶ [スリープ時間]
[OFF] / [1分] / [3分] / [5分] / [10分]

USB 接続モード

USBケーブルを使って、カメラをPCやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、「カメラをプリンタに接続する」（☞ P 118）、「カメラをパソコンに接続する」（☞ P 128）をお読みください。

MENU ▶ [Ỷ2] ▶ [USB 接続モード]

[オート]
カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

[ストレージ]
USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS Masterを使うときにもこれに設定します。

[カメラコントロール]
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

[凸かんたん]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 118)

[凸カスタム]
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 118)

表示する言語を切り替える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語ではなく他の言語にすることができます。

MENU ▸ [ĩ2] ▸ [言語]

△▽で表示したい言語を選択します。

- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをお読みください。

TV につなぐ前に

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。
海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

MENU ▸ [ĩ2] ▸ [ビデオ出力]

[NTSC] / [PAL]

主な国と地域の映像信号

海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

ボタン保持時間の設定

ダイレクトボタンで機能を設定するときに、ボタン操作をやめてからメニューが消えるまでの時間を設定できます。

MENU ▸ [ĩ2] ▸ [ボタン ON 保持時間]

[HOLD] もう一度ボタンを押すまでの間、設定変更が可能です。
[3秒] 3秒間設定変更が可能です。
[5秒] 5秒間設定変更が可能です。
[8秒] 8秒間設定変更が可能です。

自動電源 OFF

電源を入れた状態で長時間カメラを使用しないときに、自動的に電源が切れるように設定することができます。**[OFF]**に設定すると電源は切れません。

MENU ▸ [2] ▸ [自動電源 OFF]
[OFF] / [4時間]

起動画面の設定

カメラの電源を入れたときに起動画面を表示させないようにできます。
[OFF]に設定すると、起動画面は表示されません。

MENU ▸ [2] ▸ [起動画面]
[OFF] / [ON]

パネル配色の設定

スーパーコンパネの配色を切り替えることができます。

MENU ▸ [2] ▸ [パネル配色]
[配色1] / [配色2]

（水中モード）

モードダイヤルの[（スポーツ）]と[（夜景＆人物）]を[（水中マクロ）]と[（水中ワイド）]におき替えることができます。水中での撮影には別売の水中プロテクタをご使用ください。

MENU ▸ [2] ▸ [/]
[DIAL] / [DIAL]

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。

MENU ▸ [2] ▸ [バージョン]
を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

7
設定・機能のカスタマイズ

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

MENU ▶ [Ï2] ▶ [日時設定]

Ⓐ Ⓥ で日付の順序を、[年 - 月 - 日]、[月 - 日 - 年]、[日 - 月 - 年] から選択し、Ⓓ を押します。

- 以下の手順は**[年-月-日]**に設定した場合の説明です。

1 **Ⓐ Ⓥ で年の項目を入力し、Ⓓ で月の項にすすみます。**

- Ⓒを押すと、1つ前の項目に戻ります。
- **[年]**の上2桁は固定されています。

2 **同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。**

- 時刻は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

3 **Ⓞ ボタンを押します。**

- 0秒の時報に合わせてⓄボタンを押すと、正確に時刻を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

❗ 注意

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮影する前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。
プリント予約したい画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF 対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF 対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
プリンタによってはPCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

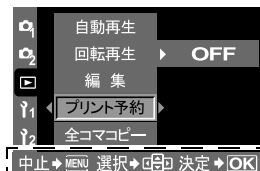
プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ファイル番号
（例）100—0011
画像の通し番号
フォルダの通し番号

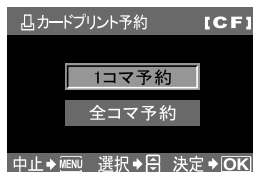
注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと**[カード残量がありません]**と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

プリント予約設定の流れ

プリント予約には、選択した画像のみプリント予約する**[1コマ予約]**と、カード内の全画像をプリント予約する**[全コマ予約]**があります。
メニューで以下の設定を行ってください。

プリント予約モードを選ぶ

選択した画像のみをプリント予約するか、カード内の全画像をプリント予約するかを選びます。

[1コマ予約] 選択した画像のみをプリント予約します。
[全コマ予約] カード内の全画像をプリント予約します。全コマ予約を設定した後に撮影された画像にはプリント予約がされません。

すでにプリント予約した画像がある場合

その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
☞「プリント予約を解除する」(P 115)

プリントする画像を選ぶ

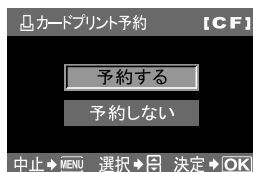
選択した画像のみをプリント予約します。
プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。プリント枚数は10枚まで設定できます。プリント枚数が0のときはプリント予約がされていません。
1コマ予約をした後に全コマ予約を行うと、プリントされる画像はすべて1枚ずつの設定になります。

プリントする情報を設定する

プリント予約を設定した画像に、撮影した日付や時刻をプリントすることができます。

[無し] 画像のみがプリントされます。
[日付] すべての画像に撮影年月日がプリントされます。
[時刻] すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

プリント予約を確定する

[予約する] プリント予約の設定を確定します。
[予約しない] プリント予約をやめて、▶メニューに戻ります。

プリント予約を解除する

プリント予約を解除します。すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 MENU ▶ [▶] ▶ [プリント予約]

2 ✥で[1コマ予約]か[全コマ予約]を選択します。
[1コマ予約]選んだ画像のプリント予約を解除したいときに選択します。
[全コマ予約]すべてのプリント予約を解除したいときに選択します。

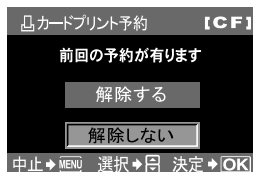
3 OKボタンを押します。
- プリント予約を解除するかどうかを確認する画面が出ます。

4 解除したい予約内容によって、次の手順を行ってください。
全コマを解除する場合は、予約方法を選択したあとに**[解除する]**を選択して解除します。
1コマずつ解除する場合は、「1コマ予約の解除」（P 116）の手順で予約枚数を0枚に設定します。

すべての予約の解除

1) 手順2で右の画面が出たら**[解除する]**を選択します。
2) メニューが消えるまで **MENU** ボタンを繰り返し押します。

1 コマ予約の解除

1) **[解除しない]**を選択し、OKボタンを押します。

2) ◁▷でプリント予約を解除したいコマを表示させ、▽でプリント枚数を0にします。
- 他にも解除するコマがあるときは、これを繰り返します。

3) 終わったら、OKボタンを押します。
- **[日時プリント]**画面が表示されます。

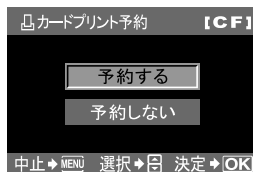
0枚に設定する

4) △▽で**[無し]**、**[日付]**、**[時刻]**から選択し、OKボタンを押します。
- 残ったプリント予約されているコマに、選択した設定が適用されます。

5) △▽で**[予約する]**を選択し、OKボタンを押します。
- 設定が記録されます。
- ▶メニューに戻ります。

8

プリントする

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。（☞ P 112）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞ P 121 ）で**[標準設定]**を選択すると、この設定に従ってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

プリンタのアクセサリ

プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

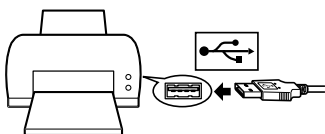
注意

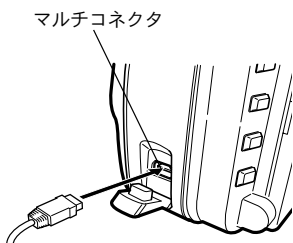
- 電池容量にご注意ください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 専用 USB ケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。カメラの電源を入れます。

- USBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 ⦿で[かんたんプリント]か[カスタムプリント]を選択します。

[かんたんプリント]を選択した場合

- 「かんたんプリントでプリントする」（P 119）へ進んでください。

[カスタムプリント] を選択した場合

- **[しばらくお待ちください]** と表示されたあとカメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。
  「カスタムプリントでプリントする操作の流れ」（P 119）へ進んでください。

注意

- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USB ケーブルを抜いて、手順2からやり直してください。

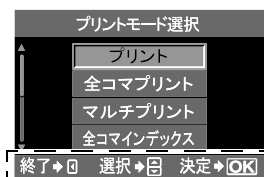
かんたんプリントでプリントする

1 プリントしたい画像をカメラに表示してから、USB ケーブルでカメラとプリンタを接続します。**☞「カメラをプリンタに接続する」(P 118)**

- **[かんたんプリント開始]** 画面が表示されます。

2 （プリント）ボタンを押します。

カスタムプリントでプリントする操作の流れ

プリントモード選択
プリント
全コマプリント
マルチプリント
全コマインデックス
終了➔ 選択➔ 決定➔OK

この部分に表示されるガイドに従って操作を進めてください。

プリントモードを選択する	（☞ P 120）

↓

用紙を設定する	（☞ P 121）

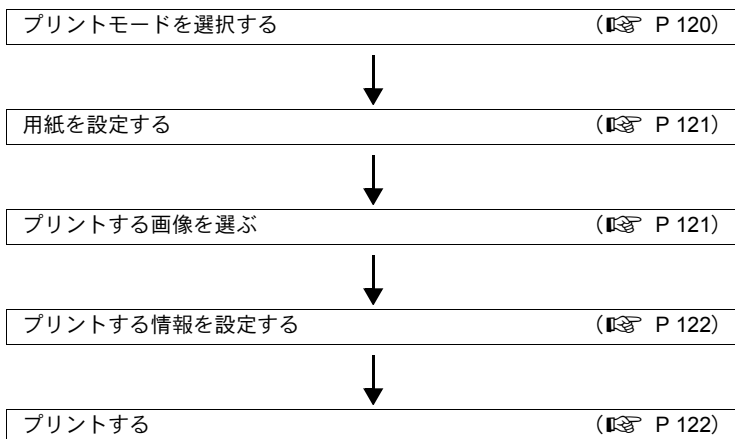
↓

プリントする画像を選ぶ	（☞ P 121）

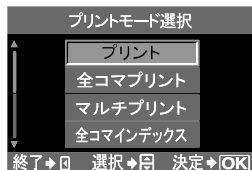
↓

プリントする情報を設定する	（☞ P 122）

↓

プリントする	（☞ P 122）

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1 枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容に従ってプリントします。あらかじめプリント予約（☞ P 114）された画像がないときは、選択できません。

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。
詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

[サイズ] プリンタで用意されている用紙に合わせます。

[フチ] 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

[分割数] 同じ画像を 1 枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

[プリント]（OK） 表示している画像をプリントします。**[一枚予約]**をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

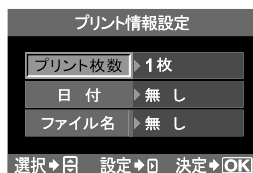
[一枚予約]（▲） 表示している画像をプリントする予約をします。**[一枚予約]**をしたら、◀▶で、次に予約したい画像を選んでください。

[詳細予約]（▼） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。☞「プリントする情報を設定する」(P 122)

8 プリントする

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。

[プリント枚数]　プリントする枚数を設定します。
[日付]　画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
[ファイル名]　画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

プリントする

プリントする画像や内容が決まったらプリントします。

[プリント]　プリンタへプリントする画像のデータを転送します。
[中止]　プリントをやめます。設定してある予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、◁を押します。一つ前の設定に戻ります。

プリントを始めてから途中で停止したいときは、OKボタンを押します。

[続行]　プリントを続行します。
[中止]　プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

8 プリントする

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

準備するもの

- OLYMPUS Master CD-ROM
- USBケーブル
- USBポートを装備したパソコン

付属の OLYMPUS Master を使う

OLYMPUS Master とは

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむための機能を持つアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

- **カメラやメディアから画像を取り込む**
- **画像を見る**
  スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。
- **画像を整理・管理する**
  カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードで、目的の画像をすばやくみつけることができます。
- **フィルタ機能、補正機能で画像を補正する**
- **画像を編集する**
  画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。
- **プリンタを使ってプリントする**
  インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。
- **パノラマ写真を作る**
  パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

その他の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの**[ヘルプ]**および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Master をインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。
新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

動作環境

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	PentiumIII 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、65,536色以上

注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional / XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザでログインしてください。
- パソコンにQuickTime 6以上、Internet Explorerがインストールされている必要があります。
- Windows XPはWindows XP Professional / Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

OS	Mac OS X 10.2 以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、32,000色以上

注意

- USBポートが標準装備でないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- パソコンにQuickTime 6以上、Safari1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ＆ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
- カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
- カメラの電源を切る
- カメラのカードカバーを開ける

インストール

■ Windowsの場合

1 パソコンを起動してCD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- OLYMPUS Masterインストール画面が表示されます。
- 表示されない場合は、**[マイコンピュータ]**アイコンをダブルクリックし、CD-ROMアイコンをクリックしてください。

2 [OLYMPUS Master]をクリックします。

- QuickTime インストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させる上で必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 [次へ] をクリックし、画面のメッセージに従って行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで**[同意します]**をクリックします。
- OLYMPUS Masterインストールの画面が表示されます。

4 画面のメッセージに従って行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで**[はい]**をクリックします。

- 右の画面が表示されたときは、**[名前] [OLYMPUS Masterシリアル番号]**を入力し、お住まいの地域を選択して**[次へ]**をクリックします。シリアル番号は、CD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。
- DirectXの使用許諾画面が表示されたら契約文をお読みのうえ、**[はい]**をクリックしてインストールを進めます。
- Adobe Readerをインストールするかどうかを確認する画面が表示されます。Adobe ReaderはOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Readerがインストールされている場合は、**[OK]**をクリックします。
- 続いて蔵衛門体験版のインストール画面が表示されます。インストールする場合は**[はい]**をクリックしてください。

5 画面のメッセージに従って行います。

- インストール完了画面が表示されます。

6 再起動を求める画面が表示されたら、すぐに再起動するための項目を選択し、[OK]をクリックします。

■ **Macintoshの場合**

1 **CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。**

- CD-ROMのウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合はデスクトップの CD-ROM アイコンをダブルクリックします。

2 **[インストーラ]アイコンをダブルクリックします。**

- 画面のメッセージに従って行います。
  OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで**[続ける]**、**[同意します]**をクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

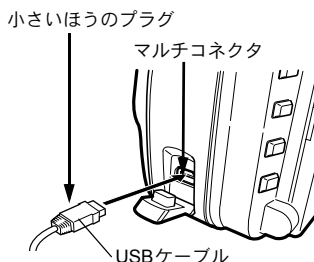
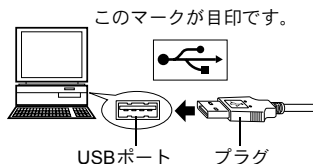
3 **[終了]をクリックします。**

4 **CD-ROM を取り出して [再起動] をクリックします。**

カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 付属のUSBケーブルで、パソコンのUSB ポートとカメラのマルチコネクタを接続します。

- USBポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2 カメラのパワースイッチを ON にします。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

USB
ストレージ
カメラコントロール
かんたんプリント
カスタムプリント
選択 ➔ 決定 ➔ OK

3 △▽を押して[ストレージ]を選択します。OKボタンを押します。

4 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- **Windows**
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。**[OK]**をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは**[リムーバブルディスク]**として認識されます。

- **Macintosh**
  Mac OSでは、iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは、iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Master を起動する

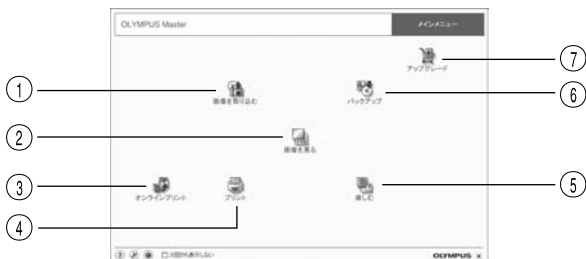
■ Windowsの場合

1 **デスクトップの （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**

- メインメニューが表示されます。

■ Macintoshの場合

1 **[OLYMPUS Master]フォルダ内の （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。**

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時にユーザ情報の画面が表示されますので、**[名前]** **[OLYMPUS Masterシリアル番号]**を入力し、地域を選択してください。

① **[画像を取り込む] ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **[画像を見る] ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

③ **[オンラインプリント] ボタン**
オンラインプリントウィンドウが表示されます。

④ **[プリント] ボタン**
プリントメニューが表示されます。

⑤ **[楽しむ] ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑥ **[バックアップ] ボタン**
画像をバックアップします。

⑦ **[アップグレード] ボタン**
OLYMPUS Master Plusへアップグレードできるウィンドウが表示されます。

OLYMPUS Master を終了する

1 **メインメニューで （閉じる）ボタンをクリックします。**

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで（画像を取り込む）をクリックします。

- 取り込み元を選択するメニューが表示されます。

2 （カメラから）をクリックします。

- 取り込み元のウィンドウが表示されます。 カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 画像ファイルを選択し、[取り込み]ボタンをクリックします。

- 確認のメッセージが表示されます。

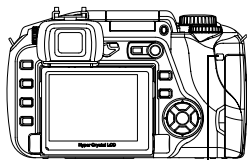
4 [今すぐ画像を見る] ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの**[メニュー]**をクリックすると、メインメニューに戻ります。
- カードアクセスランプが点滅している間は、絶対にカメラの電池／カードカバーを開けたりしないでください。ファイルが壊れる可能性があります。

カメラを取り外す

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

1 カメラのカードアクセスランプの点滅が終わっていることを確認します。

2 お使いのパソコンのOSによって、次の手順を行ってください。

カードアクセスランプ

■ **Windows 98SEの場合**

1) **[マイコンピュータ]** アイコンをダブルクリックして、**[リムーバブルディスク]**を右クリックし、メニューを表示させます。

2) メニューの**[取り出し]**をクリックします。

■ **Windows Me / 2000 / XPの場合**

1) システムトレイに表示されている **[ハードウェアの取り外し]**アイコンをクリックします。

2) 表示されるメッセージをクリックします。

3) **[デバイスは安全に取り外すことができます]**が表示されたら、**[OK]**をクリックします。

9

パソコンと接続する

■ **Macintoshの場合**

1) デスクトップの**[名称未設定]**（または**[NO_NAME]**）アイコンをドラッグすると**[ごみ箱]**アイコンが**[取り出し]**アイコンに変わりますので、そのまま**[取り出し]**アイコンの上にドロップしてください。

3 カメラからUSBケーブルを引き抜きます。

注意

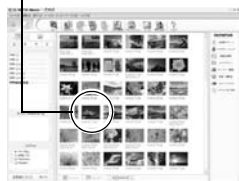
- Windows Me/2000/XPの場合：
  [ハードウェアの取り外し]をクリックした際、**[カメラを停止できません]**という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、**[ハードウェアの取り外し]**の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 OLYMPUS Masterメインメニューで **（画像を見る）をクリックします。**

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

サムネイル

- ビューモードに切り替わり、画像が拡大されます。
- ブラウズウィンドウの**[メニュー]**をクリックすると、メインメニューに戻ります。

9

パソコンと接続する

プリントする

[フォト]、**[インデックス]**、**[ポストカード]**、**[カレンダー]**などのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで（プリント）をクリックします。
- プリントメニューが表示されます。

2 （フォト）をクリックします。
- フォトプリントウィンドウが表示されます。

3 フォトプリントウィンドウの（プリンタ設定）をクリックします。
- プリンタの設定ダイアログが表示されますので、必要に応じてプリンタの設定をします。

4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。
- 日付または日時を入れて印刷するときは、**[撮影日印刷]**にチェックをつけて**[日付]**または**[日時]**を選びます。

5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、[追加]ボタンをクリックします。
- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。

6 プリントする部数を設定します。

7 [プリント]ボタンをクリックします。
- フォトプリントウィンドウの**[メニュー]**をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows　: Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
Macintosh　: Mac OS 9.0-9.2/X

注意

- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。OLYMPUS MasterをインストールするとUSBドライバも同時にインストールされます。
  （お使いのパソコンのドライブ名）：￥USB￥INSTALL.EXE
- 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以下のバージョン
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

10 もっとカメラのことが知りたいときに

被写体別機能ガイド

被写体に応じて、どのような撮影でどのような機能が有効かご紹介します。

風景を撮る

風景にも、花のある景色や夜景などいろいろあります。それぞれ撮影するためのポイントは違いますが、ここでは日中に見る森や湖などの景色を対象に紹介します。

撮影モードを変える

風景にも動きのある景色や、静寂を感じさせる静止した風景もあります。動きをどのように表現するかで撮影方法も変わります。

- 森の深さを出すために画面の広い範囲でしっかりピントの合った写真を撮るには、**A**（絞り優先撮影）モードにして、できるだけ絞り込んで（絞り値を大きくして）撮影します。
- 海岸で激しく打ち付ける波の一瞬を捉えるには、**S**（シャッター優先撮影）モードにして速いシャッター速度を選びます。滝や渓流の流れを撮影するには、シャッター速度を長秒時にすると目にする景色とは違った表現ができます。

それぞれの撮影モードでも露出補正は使えますので、撮影した画像を確認して＋や−に補正してみましょう。

ホワイトバランスを使う

同じ水を撮るのにも、深い森に囲まれた湖や南国の海ではその色は違います。微妙な色の違いを表現するにはホワイトバランスの設定を変えてみましょう。
木々の緑を映した湖の色やさんご礁に囲まれた海の微妙な色合いは、オートの設定では難しい場合があります。晴天のときは5300K（およそ晴天に該当）、晴天時の屋外の日陰では7500Kのように個々に設定を変えて撮影してみましょう。

測光モードを変える

海は深度や太陽の方向によって同じ構図の中でも明るさはかなり違います。また、森も木々の重なり具合で明るさが異なります。構図の中で露出を重視したい部分がわかっていれば、測光モードを変えてみましょう。
測光モードは、カメラの設定を変えない限りESPに設定されています。ESPは構図の中の明るさをカメラが自動的に判断して露出を決めます。しかし、構図の中で特定の部分の露出を重視したい場合などは、中央重点測光やスポット測光に変更して露出を合わせたい箇所にAFフレームを合わせて露出を計りましょう。

彩度を変える

ホワイトバランスや露出補正を使っても、見た目の色合いがうまく出せない場合があります。自分でイメージした色合いに近づけるために彩度を設定することができます。彩度は、高い、低いという設定が2段階づつ選べます。高くすると鮮やかな色合いになります。ただし、撮影時にその設定で画像が記録されますので過度に設定するのは避けた方が良いでしょう。

☞「**A**: 絞り優先撮影」(P 22)、「**S**: シャッター優先撮影」(P 24)、「測光方式を変える－測光モード」(P 65)、「画像の明るさを変える－露出補正」(P 67)、「画像の色合いを調整する－ホワイトバランス」(P 71)、「[彩度] ：色の鮮やかさ」(P 77)

花を撮る

野に咲く一輪の花から、畑一面に咲く花畑までたくさんの花があります。どのように表現したいかによって撮影の仕方もかわります。

ホワイトバランスを使う

花の色も淡いものから鮮やかなものまでたくさんあります。色によっては、微妙な色合いが見た目の通りに写らないことがあります。
うまく色合いが出ないときは、光の当たり具合をみてホワイトバランスの設定を変えてみましょう。ホワイトバランスはカメラの設定をかえない限りオートに設定されています。オートでもカメラが自動的に判断するので正しく写りますが、晴

天のときは5300K（およそ晴天に該当）、晴天時の屋外の日陰では7500Kのように個々に設定を変えた方が微妙な色合いをうまく引き出すことができます。

露出補正を使う

背景を入れて写すときは、花の形や色が際立って写るような背景を選びましょう。できるだけ単純な背景を選ぶ方が被写体は際立ちます。明るい白っぽい色の花を撮る場合は、暗い背景に花が浮かび上がって写るように露出補正を−（マイナス）に補正してみましょう。

撮影モードを変える

畑一面の花、または一輪の花を強調して写すのかで表現の方法も変わります。ピントの合う範囲を変えて撮影する場合は、**A**（絞り優先撮影）モードに設定して絞り値を選んで撮影しましょう。

- 絞りを開ける（絞り値を小さくする）と被写界深度（ピントの合う範囲）が浅くなり背景がぼけて被写体が強調されます。
- 絞り込む（絞り値を大きくする）と被写界深度が深くなり広い範囲にピントがあった写真になります。

絞りを変えた時の被写界深度の変化は、プレビュー機能を使うと確認することができます。

ライブビューを使う

- 花の咲いている場所は様々で、ファインダを覗きながら良いアングルを選ぼうとしてもうまくいかない場合があります。本機の液晶モニタはフリーアングルなので、ライブビューを使えば見やすい体勢で液晶モニタをファインダ代わりにして撮影することができます。

レンズを換える

咲いている花が少なくてまばらな場合は、レンズを望遠にして撮影してみましょう。望遠レンズを使うと、見た目の距離感よりも遠近感が縮まったように写り、花が密集して咲いているように写すことができます。ズームレンズの望遠側でも同じ効果が得られますが、54mmよりは150mmや200mmのように焦点距離が長いほど効果を得やすくなります。

☞「A: 絞り優先撮影」(P 22)、「ライブビュー」(P 28)、「プレビュー機能」(P 30)、「画像の明るさを変える―露出補正」(P 67)、「画像の色合いを調整する―ホワイトバランス」(P 71)

夜景を撮る

夜景にも、日が沈んだ直後の残照のある夕暮れの景色から都会の街灯りだけを写す場合まで様々あります。日が沈んでからの撮影というと花火の撮影もその一つです。

三脚を使う

夜景の撮影では、暗くてシャッター速度が遅くなるため三脚は必需品です。三脚がない場合でも、カメラを安定した場所に置くなどしてぶれないようにすることが必要です。カメラが固定されていても、シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまうこともありますので、できればリモコンやセルフタイマーを使ってシャッターを切りましょう。

撮影モードを変える

夜景を撮る場合、明るさの強さの違いで構図内の明るさのバランスは均一ではありません。また、暗い部分も多いので**P**（プログラム撮影）モードで撮影すると露出がオーバー気味の白っぽい写真になります。まずは、撮影モードを**A**（絞り優先撮影）モードにして撮影してみましょう。絞りは、全体の中間（F8やF11くらい）に設定してシャッター速度はカメラ任せにします。また全体的に明るすぎる写真になる場合が多いので、露出補正を−1や−1.5といった値に補正をしてみましょう。絞りや露出補正値は、**[撮影確認]**の画像で確認しながら変えて撮るのがよいでしょう。長秒時の撮影になると画像にノイズが発生しやすいので、**[ノイズリダクション]**を**[ON]**に設定すると発生するノイズを抑えることができます。

マニュアルフォーカスを使う

被写体が暗くてAF（オートフォーカス）ではピントが合わなかったり、花火のようにピント合わせが間に合わない場合は、フォーカスモードをMF(マニュアルフォーカス)に設定して手動でピントを合わせます。夜景の場合は、レンズのピントリングを回しながら街灯りがはっきり見えているかどうかを確認します。花火の場合は、長焦点レンズでないかぎり無限遠に合わせても良いでしょう。おおよその距離がわかれば、同じくらいの距離にあるものであらかじめピントを合わせておいても構いません。

☞「**P**: プログラム撮影」(P 20)、「**A**: 絞り優先撮影」（P 22)、「セルフタイマー撮影」（P 51）、「リモコン撮影」（P 53）、「フォーカスモード」（P 58）、「ノイズリダクション―長秒時の画像のノイズを軽減する」（P 79)、「撮影後すぐに画像を確認する―撮影確認」（P 107）

こんなときは？

撮影前、こんなときは

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラはオン状態（液晶モニタ点灯）でも、何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。このとき液晶モニタは消灯します。更に数時間何も操作をしないと、自動的に電源が切れます。カメラは電源を入れ直すまで動きません。☞「スリープ時間」(P 108)

フラッシュが充電中である

- フラッシュを起こしているとき、スーパーコンパネやファインダ内の⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

- ファインダ内の合焦マークが点滅しているときは、AFでピントを合わせることができなかったときです。もう一度シャッターボタンを押しなおしてください。

こんな撮影がしたい

狙ったものにピントを合わせたい

被写体の種類によっていくつかの方法があります。

被写体に AF フレームがあっていない

- 被写体にAFフレームがあたるようにしてフォーカスロックを使います。
  ☞「ピントが合わないとき（フォーカスロック）」(P 31)

それぞれの AF フレームに被写体以外のものがあたっている

- [･･･]（AFフレーム選択）を[･]に設定し、画面中央でピント合わせをします。
  ☞「AFフレームの選択」(P 57)

被写体の動きが早い

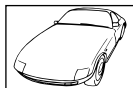
- 撮影しようとする位置とほぼ同じ距離のものでピントを合わせ（シャッターボタン半押し）、そのまま撮影する構図に移して被写体を待ちます。

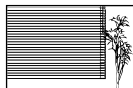
マクロレンズによる接写をしている

- マクロレンズを使って接写などをする場合、被写体の拡大率が大きいほど AF ではピントが合いにくくなります。ライブビュー機能のBモードを使ってみましょう。AF は自動的にMF になりますので、液晶モニタの表示を見ながらフォーカスリングを回して手動でピントを合わせます。☞「ライブビュー」(P 28)

オートフォーカスの苦手な被写体

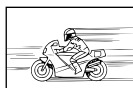
次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

被写体がAF フレーム内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。

ぶれない写真を撮りたい

写真がぶれる理由は、いくつかあります。

被写体が暗い

- 被写体の明るさに合わせてシャッター速度は変化します。被写体が暗くシャッター速度が遅いとき、被写体が動くとぶれやすくなります。またSCENE（シーンモード）の中には、フラッシュが発光禁止に設定されている場合があるので、シャッター速度はさらに遅くなります。
  三脚などを使ってカメラを固定しましょう。さらにリモコン（別売）を使ってシャッターを切ると効果的です。
  また、SCENE（シーンモード）の[(ぶれ軽減）]で撮影する方法もあります。ISO感度を自動的に変えるので、少しくらい暗くても、手持ちでフラッシュなしの撮影ができます。

シャッターを切るときにカメラがぶれている、カメラを構える手がぶれている。

- シャッターボタンは静かに押してください。また、カメラは両手で持って正しく構えましょう。

フラッシュをあまり光らせないで撮りたい

フラッシュは明るさが不足して、手ぶれを発生する場合は自動的に光ります。被写体の距離が遠いとフラッシュが光ってもあまり効果がない場合があります。このようなときは以下の方法があります。

SCENE（シーンモード）を [（ぶれ軽減）] に設定する

- ISO感度が自動的に高くなるので少しくらい暗くても手持ちでフラッシュなしの撮影ができます。

[ISO 感度] 設定を高くする

- **[ISO感度]**設定の数値を高くします。画像が粗くなる場合があります。
  ☞「明るさに合わせた設定—ISO感度」(P 70)

撮影した写真が粗い

撮影した写真が粗く見える理由はいくつかあります。

ISO 感度を高く設定して撮影した

- **[ISO感度]**設定を高くすると、ノイズと言われる本来そこにはないはずの色の小さな点や均一の色の部分に色むらが発生し、画像が粗く見えます。このカメラはノイズを抑えて高感度で撮影できる機能を備えていますが、ISO感度を高くすると、低いときよりは粗くなります。
  ☞「明るさに合わせた設定―ISO感度」(P 70)

低照度下で長秒時シャッターで撮影した

- 暗い中での撮影ではシャッター速度が遅くなり、ノイズが現れやすくなります。**[ノイズリダクション]**を**[ON]**に設定しておくと撮影時にノイズを除去し、きれいな画像を撮影することができます。
  ☞「ノイズリダクション―長秒時の画像のノイズを軽減する」(P 79)

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストと言われる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。

正しい色で撮りたい

撮影した写真の色が見た目と違う原因は被写体を照らす光源です。**[ホワイトバランス]**はカメラが正しい色を判断するための機能です。通常は**[AUTO]**でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては**[ホワイトバランス]**の設定を変えて試してみる方が良い場合があります。

- 晴天の日中でも被写体が陰になるとき
- 窓辺などで外光と照明光が重なってあたるとき
- 画面の中に白いものがないとき
  ☞「画像の色合いを調整する―ホワイトバランス」(P 71)

パノラマ写真を撮りたい

[パノラマ]の機能はオリンパス製のxD-ピクチャーカードを使用しているときのみ行えます。他社製カードではできません。パノラマ撮影した画像は付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコン上で合成することができます。
☞「パノラマ撮影」(P 56)

白い砂浜や雪景色をきれいな白で撮りたい

通常、雪などの白い被写体を撮影すると実際より暗く写ってしまいます。見たままの白を表現する方法はいくつかあります。

- **[露出補正]**を**[＋]**に補正します。
- SCENE（シーンモード）の**[ビーチ＆スノー]**を使って撮影します。晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。☞「シーンモード」(P 19)
- **[⦿HI]**（ハイライトコントロール）を使います。
  ファインダ中央を、白く表現したい部分にあててシャッターボタンを半押しします。中央で測光した部分が白く写るように設定されます。
- オートブラケット機能を使って撮影します。
  露出補正の量がわからないときは、オートブラケットを使ってみましょう。シャッターを押すたびに補正値を少しずつ変えて撮影されます。露出補正を少し大目に設定しておけば、その値を中心に上下に補正値を変えて撮影できます。
  ☞「画像の明るさを変える—露出補正」(P 67)

逆光でも人物の顔が暗くならないように撮りたい

被写体に比べて背景などが極端に明るい場合は、明るい部分に露出が影響されて被写体が暗く写ってしまいます。これは、カメラが画面全体の明るさから判断して露出を決めてしまうためです。

- [ESP]（測光）]を⦿（スポット測光）に設定して画面中央で被写体の露出を計ります。構図を変えるときは被写体を画面中央におき、**AFL**ボタンを押しながら構図を変えてシャッターボタンを押します。
  ☞「測光方式を変える—測光モード」(P 65)
- フラッシュを起こしてフラッシュモードを **[⚡]**（強制発光）に設定して撮影します。逆光でも顔が暗くならずに撮影できます。**[⚡]**（強制発光）は逆光の他、蛍光灯など人工照明下での撮影のときにも使用します。
  ☞「フラッシュモードを設定する」(P 42)

明るすぎたり暗すぎたりして写る

Sモードや**A**モードで撮影するとき、スーパーコンパネやファインダのシャッター速度や絞りの表示が点滅することがあります。赤の表示は、正しい露出になっていないことを示しています。このままの状態で撮影すると、明るすぎる、または暗すぎる写真になってしまいます。その場合は、絞り値やシャッター速度の設定値を変更してください。

☞「**A**: 絞り優先撮影」(P 22)
☞「**S**: シャッター優先撮影」(P 24)

撮影中、これが知りたい

撮影できる枚数を多くしたい

撮影した画像は、カードに記録されます。より多くの画像を記録するには以下の方法があります。

- 画像モードを変えます。
  画質モードによって1枚の画像の容量は異なります。カードの空き容量を確保できない場合は画質モードを変えて撮影してみましょう。「ピクセルサイズ」は小さく「圧縮率」の値が大きいほど画像の容量は小さくなります。画質モードの**[SQ]**ではその両方を選択することができます。
- 大容量のカードを使います。
  記録できる画像枚数は、使用するカードの容量によって異なります。容量の大きいカードをお使いください。

新しいカードを使いたい

オリンパス製以外のカードを使うときや、パソコンなどで他の用途に使用したカードをカメラに入れると、**[このカードは使用できません]**と表示されることがあります。その場合は、**[カード初期化]**の機能を使ってカードを初期化してください。☞「カードを初期化する」(P 156)

電池を長持ちさせたい

以下の操作をすると実際に撮影をしなくても、電池の消耗は進みます。

- シャッターボタンの半押しを繰り返す
- 撮影した画像の再生を長時間繰り返す
- 長時間ライブビュー機能を使う

電池の消耗をできるだけ防ぐには、こまめに電源を切るようにしましょう。

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [マクロ]と**[フラッシュ]**の組み合わせなど。

画質モードの選び方の目安を知りたい

画質モードは、大きくはRAWとTIFF、JPEGの3種類に分けられます。RAWは画像自体に露出補正やホワイトバランスなどの設定を反映せずに記録します。TIFFやJPEGはこれらの設定を反映した画像で記録します。また、JPEGは画像を記録する際にファイルサイズを小さくするために圧縮して記録します。JPEGは「SHQ」「HQ」「SQ」の種類があり、画像のサイズ(ピクセルサイズ)や圧縮率の大小で分けられています。圧縮率が大きいほど画像を拡大して表示した場合に粗さが目立ちます。選択する際のおおよその目安は以下の通りです。

撮影時の設定を元に、パソコンで微調整しなおしたい
- **[RAW]**

大きなサイズで印刷するので、少し粗さも気になる
- **[TIFF]**

A4 などの大きなサイズで印刷したい／パソコンで画像処理したい
- ピクセルサイズの大きい**[SHQ][HQ]**

はがきなどのサイズに印刷したい
- ピクセルサイズの大きい**[SQ]**

メールに添付したりホームページに載せる
- ピクセルサイズの小さい**[SQ]**

☞「画質モード一覧」(P 165)

設定した機能を購入時の設定に戻したい

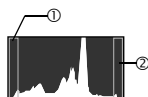
- 設定した機能は電源を切っても保持しています。（シーンモードで電源を入れた場合は、特定の設定に変わります。）
- 工場出荷時の設定に戻したいときは、**[カスタムリセット設定]**で**[リセット]**を実行します。また、リセットしたときの設定を2種類まで選ぶことができます。カメラの各機能を設定して**[カスタムリセット設定]**で**[リセット1]**または**[リセット2]**に登録します。☞「カスタムリセット設定」(P 95)

屋外で液晶モニタが見にくい状況で露出の確認をしたい

明るい屋外での撮影では、液晶モニタが見にくく露出の確認がしづらいことがあります。

撮影した画像を再生してヒストグラム表示を使って確認しましょう。画像を再生して**INFO**ボタンを何度か押します。
ヒストグラム表示の簡単な見かたは次の通りです。

ヒストグラム表示について

① このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は黒くつぶれ気味に写ります。
② このあたりでグラフに著しく突出した部分が多い場合、画像は白くとび気味に写ります。

☞「情報表示」(P 85)

設定した機能を後で使えるように残しておきたい

[マイモード設定]で現在のカメラの設定状態を記憶しておくことができます。マイモードは2つまで記憶できます。マイモードを呼び出して使うには**[□ボタン機能]**の設定を**[マイモード撮影]**にする必要があります。このとき□ボタンを押しながら撮影すると登録した設定で撮影することができます。
☞「□ボタン機能」(P 103)、「マイモード設定」（P 103）

再生中、こうしたい

撮影した画像の設定値などの情報を知りたい

画像を再生して**INFO**ボタンを押します。繰り返し押すと、表示される情報量が変わります。☞「情報表示」(P 85)

画像をパソコンで見るとき、こうしたい

パソコンの画面で画像全体を見たい

パソコンのモニタ上で画像が表示されるときの大きさは、パソコンの設定によって変わります。モニタの設定が1024×768のときInternet Explorerを使って画像を見る場合、画像サイズが2048×1536の画像を100%で表示するとスクロールしないと全体を見ることができません。この場合、いくつかの方法があります。

画像閲覧用のソフトを使って画像を見る

- 付属のCDのOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。

パソコン画面のプロパティの設定を変更する

- デスクトップのアイコンの配置が換わってしまうことがあります。パソコンの設定方法は、パソコンの取扱説明書をお読みください。

RAW で記録した画像を見たい

- 付属のCDを使ってOLYMPUS Masterをインストールして使用してください。OLYMPUS MasterのRAW現像の機能を使うと画像を撮影時の設定にしたり、露出補正やホワイトバランスなどの設定を細かく変更することもできます。

エラーメッセージが表示されたら

エラーコード表示

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
通常表示	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
E Card	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
P Card	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

ファインダ内の表示	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
oP Card	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
F Card	このカードは使用できません	カードが初期化されていません。	カードを初期化してください。
表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。

プリントに関する表示

対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

■ カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン

→ 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。 レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

■ カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 定期的に電池を入れて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときに働きます。また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。☞「各部の名称」(P 166)

! 注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

ゴミの除去 — クリーニングモード

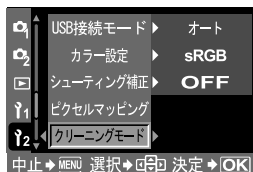
撮像素子にゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。このような場合は、オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。
電池をお使いの場合、クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 レンズを取り外します。

2 パワースイッチをONにします。

3 MENU ▸ [2] ▸ [クリーニングモード]

4 を押して、OKボタンを押します。

- クリーニングモードになります。

5 シャッターボタンを全押しします。

- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

6 撮像素子をクリーニングします。

- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

7 電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。

- カメラの電源が切れると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

注意

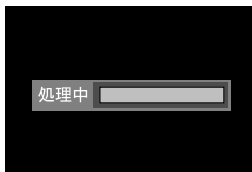
- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。もし、ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。 高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。始める前に、レンズキャップをして、アイピースシャッターを閉じてください。

1 **MENU ▶ [Ƴ2] ▶ [ピクセルマッピング]**

2 **Ⓓを押します。ⒶⓋで[実行]を選びⓄボタンを押します。**

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

❗ 注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

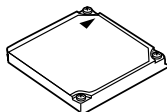
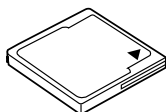
カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼んでいます。このカメラで使用できるカードは、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブ、xD-ピクチャーカード（別売）です。

コンパクトフラッシュ
大容量かつ堅牢性の高いフラッシュメモリーカードです。 市販のコンパクトフラッシュが使用できます。

マイクロドライブ
大容量に対応した小型のハードディスクドライブです。CF＋TypeII（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使用できます。

xD- ピクチャーカード
主にコンパクトカメラで使用されている記録メディアです。

マイクロドライブ使用時のご注意

マイクロドライブは小型のハードディスクドライブです。回転系記録媒体のため、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に弱く、使用時（とくに記録中や再生中）は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分な注意が必要です。ご使用の前に以下の注意事項をよくお読みください。
マイクロドライブの取扱説明書もあわせてお読みください。

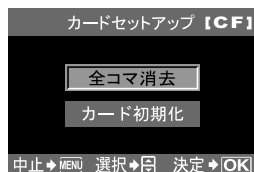
- 画像記録中にカメラを机などに置く場合は、カメラに衝撃を与えないでください。
- 工事などで地盤が振動している場所や、舗装の悪い道を走行中の車など、カメラに激しく振動が伝わる場所では使用しないでください。
- 強い磁気のある場所へ近づけないでください。
- 初期化や削除をしてもカード内のデータは完全に消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを初期化する

当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 **MENU ▶ [ ] ▶ [カードセットアップ]**

2 **で[カード初期化]を選択します。ボタンを押します。**

3 **で[実行]を選択します。ボタンを押します。**
- 初期化が実行されます。

こんなときは

2 つのカードスロットにカードを挿入しているときは
→ **MENU**の**[記録カード選択]**で使用するカードを選択してください。

MENU ▶ [2] ▶ [記録カード選択]
[CF] / **[xD]**

11 資料

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（BLM-1）1 個を使用します。
  それ以外の電池は使用できません。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（BCM-2）で充電を行ってください。
- 付属の充電池の充電時間は通常約5時間（目安）です。
- 専用の充電器以外は使用しないでください。
- 充電器はAC100～240V（50/60Hz）の電圧範囲でご使用になれます。海外でご使用の際は、変換プラグアダプターが必要になる場合があります。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。
- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去/カード初期化		P 93 P 156
	カスタムリセット設定	リセット		P 95
		リセット1	登録 /クリア	
		リセット2	登録 /クリア	
	仕上がり	VIVID* / NATURAL / FLAT / モノトーン / セピア		P 77
	階調	ハイキー / 標準* / ローキー		P 78
	画質モード	HQ* / SQ / RAW+SHQ / RAW+HQ / RAW+SQ / RAW / TIFF / SHQ		P 64
	露出補正	-5.0 ~ 0.0* ~+5.0		P 67
	ノイズリダクション	OFF* / ON		P 79
	WBモード	オート*	R -7~+7	P 73
			G -7~+7	
		5300K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		6000K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		7500K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		3000K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		4000K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		4500K	R -7~+7	
			G -7~+7	
		6600K	R -7~+7	
			G -7~+7	
			R -7~+7	
			G -7~+7	
		CWB	2000K~14000K	
	ISO感度	オート* / 100~400（拡張時400~1600）		P 70
	測光	*	AF連動ON / AF連動OFF	P 65
		HI		
		SH		

*初期設定

<table>
<tr><th>タブ</th><th>機能</th><th colspan="2">選択肢</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="12">2</td><td rowspan="2">フラッシュ</td><td colspan="2">P / A / / / / / :
オート発光* / / / / SLOW /
SLOW / SLOW2 / FULL / 1/4 /
1/16 / 1/64</td><td rowspan="2">P 42</td></tr>
<tr><td colspan="2">S / M :
* / / / SLOW2 / FULL /
1/4 / 1/16 / 1/64</td></tr>
<tr><td>フラッシュ補正</td><td colspan="2">-2.0~0.0* ~+2.0</td><td>P 44</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">単写* / 連写 / 12s / 2s / 0s / 2s</td><td>P 50
P 51
P 53</td></tr>
<tr><td>AF方式</td><td colspan="2">S-AF* / C-AF / MF / S-AF+MF / C-AF+MF</td><td>P 58</td></tr>
<tr><td>[···]</td><td colspan="2">オート* / [·] / [·] / [·]</td><td>P 57</td></tr>
<tr><td rowspan="2">WB BKT</td><td>R-B</td><td rowspan="2">OFF* / 3F 2STEP /
3F 4STEP /3F 6STEP</td><td rowspan="2">P 35</td></tr>
<tr><td>G-M</td></tr>
<tr><td>AE BKT</td><td colspan="2">OFF* / 3F 0.3EV / 3F 0.7EV / 3F 1.0EV</td><td>P 33</td></tr>
<tr><td>FL BKT</td><td colspan="2">OFF* / 3F 0.3EV / 3F 0.7EV / 3F 1.0EV</td><td>P 45</td></tr>
<tr><td>MF BKT</td><td colspan="2">OFF* / 5F 1STEP / 5F 2STEP / 7F 1STEP /
7F 2STEP</td><td>P 36</td></tr>
<tr><td>低振動モード</td><td colspan="2">OFF* / 1秒~30秒</td><td>P 80</td></tr>
</table>

*初期設定

再生メニュー

<table>
<tr><th>タブ</th><th>機能</th><th colspan="2">選択肢</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="6">▶</td><td>自動再生</td><td colspan="2">1* / 4 / 9 / 16 / 25</td><td>P 86</td></tr>
<tr><td>回転再生</td><td colspan="2">OFF / ON*</td><td>P 87</td></tr>
<tr><td rowspan="2">編集</td><td colspan="2">RAW編集</td><td rowspan="2">P 89</td></tr>
<tr><td>JPEG/TIFF編集</td><td>モノクロ作成/ セピア作成 /
赤目補正 / 鮮やかさ調整 /
リサイズ</td></tr>
<tr><td>プリント予約</td><td colspan="2">1コマ予約 / 全コマ予約</td><td>P 114</td></tr>
<tr><td>全コマコピー</td><td colspan="2">実行 / 中止</td><td>P 91</td></tr>
</table>

*初期設定

カスタムメニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	ISO感度ステップ	1/3EV* / 1EV		P 100
	ISO感度拡張	OFF* / ON+NF / ON		P 100
	ISOリミッター	OFF* / 100 / 200 / 400 / 800		P 101
	露出ステップ	1/3EV* / 1/2EV / 1EV		P 100
	全WBモード補正	ALL SET	R -7~+7	P 101
			G -7~+7	
		ALL CLEAR	実行 / 中止	
	HQ設定	1/4 / 1/8*/ 1/12		P 64
	SQ設定	ピクセルサイズ	2560x1920 / 1600x1200 / 1280x960* / 1024x768 / 640x480	P 64
		圧縮率	1/2.7 / 1/4 / 1/8* / 1/12	
	内蔵フラッシュ拡張	OFF* / ON		P 101
	+ 連動	OFF* / ON		P 44
	同調速度設定	1/60~1/180*		P 101
	ライブビュー拡張	OFF* / ON		P 102
	ダイヤル	**P**	**Ps*** / 露出補正	P 102
		M	シャッタ速度* / 絞り	
	AEL/AFLモード	S-AF	mode1*/ mode2 / mode3	P 98
		C-AF	mode1 / mode2*/ mode3 / mode4	
		MF	mode1*/ mode2 / mode3	
	AEL/AFL MEMO	ON / OFF*		P 100
	AEL測光モード	オート* / / / **HI** / **SH**		P 100
	ワンプッシュ消去	OFF* / ON		P 104
	RAW+JPEG消去	JPEG / RAW / RAW+JPEG*		P 105
	ボタン機能	// * / ワンタッチWB / 試し撮り撮影 / マイモード撮影 / プレビュー / プレビューB		P 103
	マイモード設定	マイモード1 / マイモード2		P 103
	フォーカスリング	*/		P 104
	AFイルミネータ	OFF / ON*		P 62
	レンズリセット	OFF / ON*		P 104
	レリーズ優先S	OFF*/ ON		P 62
	レリーズ優先C	OFF / ON*		P 62
	罫線表示	Aモード	OFF */ パスポート / パスポート	P 29
		Bモード	OFF*/ 黄金分割 / 方眼 / 目盛	

*初期設定

11 資料

セットアップメニュー

タブ	機能	選択肢	参照ページ
2	日時設定	—	P 111
	記録カード選択	CF* / xD	P 155
	ファイルネーム	オート* / リセット	P 106
	ファイルネーム編集	sRGB Adobe RGB OFF* / A-Z / 0-9	P 107
	モニタ調整	Lo -7~0* ~Hi +7	P 107
		日本語* / ENGLISH	P 109
	ビデオ出力	NTSC*/ PAL	P 109
	ビープ音	OFF / ON*	P 107
	撮影確認	OFF / 1秒~20秒（5秒*）	P 107
	スリープ時間	OFF / 1分* / 3分 / 5分 / 10分	P 108
	自動電源OFF	OFF / 4時間*	P 110
	ボタンON保持時間	3秒 / 5秒 / 8秒* / HOLD	P 109
	起動画面	OFF / ON*	P 110
	パネル配色	配色1* / 配色2	P 110
	実行優先設定	実行優先 / 中止優先*	P 104
	USB接続モード	オート* / ストレージ / カメラコントロール / かんたん / カスタム	P 108
	カラー設定	sRGB */ Adobe RGB	P 80
	シェーディング補正	OFF* / ON	P 78
	ピクセルマッピング	実行 / 中止	P 154
	クリーニングモード	—	P 153
	/	DIAL * / DIAL	P 110
	バージョン	—	P 110

*初期設定

11

資料

撮影モード別使用可能な機能

機能		P	A	S	M	（シーンアイコン）	SCENE
絞り値設定		—	✓	—	✓	—	
シャッター速度		—	—	✓		—	
バルブ撮影		—			✓	—	
露出補正		✓			—	✓	—
画質設定		✓					
フラッシュ撮影		✓					—
フラッシュモード	AUTO	✓		—		✓（は除く）	—
	（赤目軽減）	✓		—			—
	（赤目軽減）SLOW	✓		—		✓	—
	SLOW	✓		—		✓	—
	（赤目軽減発光）	—		✓		—	—
	SLOW2	✓					—
	（発光）	✓（は除く）					—
	（発光禁止）	✓					—
カスタムリセット設定		✓				—	—
仕上がり		✓				—	—
階調		✓					—
ノイズリダクション		✓					—
WB補正		✓					—
ISO感度		✓					—
ホワイトバランス設定		✓					—
フラッシュ補正		✓					—
測光		✓					—
連写		✓					—*1
セルフタイマー		✓					
リモコン		✓					
AFモード選択		✓					—
AFターゲットマーク選択		✓					✓（は除く）
AE BKT撮影		✓					—
WB BKT撮影		✓					—
FL BKT撮影		✓					—
MF BKT撮影		✓					—

✓：使用可　—：使用不可　*1：、、は使用可

11 資料

機能	P	A	S	M		SCENE
低振動モード	✓					—
ISO感度ステップ	✓					—
ISO感度拡張	✓					—
ISOリミッター	✓					—
露出ステップ	✓					—
全WBモード補正	✓					—
HQ設定	✓					
SQ設定	✓					
内蔵フラッシュ拡張	✓					—
+連動	✓					—
同調速度設定	✓					—
ライブビュー拡張	✓					
ダイヤル	✓					
AEL/AFLモード	✓					—
AEL/AFLメモ	✓					—
AEL測光設定	✓					—
ワンプッシュ消去	✓					
RAW+JPEG消去	✓					
ボタン機能	✓					—
マイモード設定	✓				—	
フォーカスリング	✓					
AFイルミネータ	✓					—
レンズリセット	✓					
レリーズ優先S	✓					—
レリーズ優先C	✓					—
罫線表示	✓					✓（は除く）
日時設定	✓					
カード選択	✓					
ファイルネーム	✓					
ファイルネーム編集	✓					
モニタ調整	✓					
言語選択	✓					

✓：使用可　　—：使用不可

11 資料

<table>
<tr><th>機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th></th><th>SCENE</th></tr>
<tr><td>ビデオ出力</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>ビープ音</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>撮影確認</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>スリープ時間</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>自動電源OFF</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>ボタンON保持時間</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>起動画面</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>パネル配色</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>実行優先設定</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>USB接続モード</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>カラー設定</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>シェーディング補正</td><td colspan="5">✓</td><td>—</td></tr>
<tr><td>ピクセルマッピング</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td>クリーニングモード</td><td colspan="6">✓</td></tr>
</table>

✓：使用可　　—：使用不可

画質モード一覧

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ	圧縮	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）
RAW	3136x2352	非圧縮	ORF	約12.9
TIFF		非圧縮	TIFF	約21.6
SHQ		1/2.7	JPEG	約5.7
HQ		1/4		約4.0
		1/8		約1.8
		1/12		約1.2
SQ	2560x1920	1/2.7		約4.0
		1/4		約2.4
		1/8		約1.2
		1/12		約0.8
	1600x1200	1/2.7		約1.4
		1/4		約0.9
		1/8		約0.5
		1/12		約0.3
	1280x960	1/2.7		約0.9
		1/4		約0.6
		1/8		約0.3
		1/12		約0.2
	1024x768	1/2.7		約0.6
		1/4		約0.4
		1/8		約0.2
		1/12		約0.1
	640x480	1/2.7		約0.2
		1/4		約0.2
		1/8		約0.1
		1/12		約0.1

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

各部の名称

カメラ

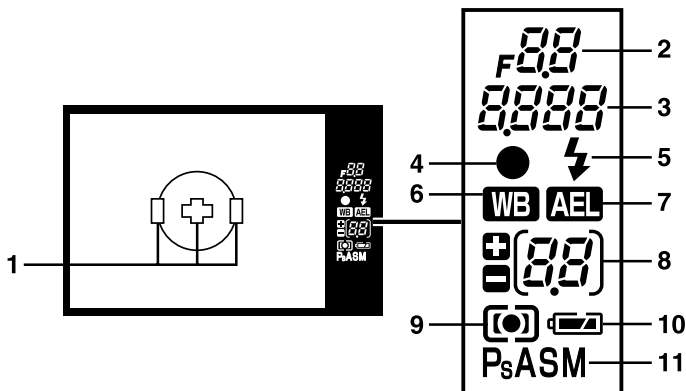
(ライブビュー)ボタン ☞ P 28
A/Bボタン ☞ P 28
アイピースシャッターレバー ☞ P 52
ファインダ ☞ P 168
視度調整ダイヤル
（再生）ボタン ☞ P 81
（消去）ボタン ☞ P 93
MENUボタン ☞ P 15
INFO（情報表示）ボタン ☞ P 85
液晶モニタ ☞ P 169 、P 170
十字ボタン ☞ P 15
（測光）ボタン ☞ P 65
UPボタン ☞ P 43
AEL/AFLボタン ☞ P 69
（プロテクト）ボタン ☞ P 92
ボタン ☞ P 50 、P 51、P 53
（コピー/プリント）ボタン ☞ P 91 、P 119
カードアクセスランプ ☞ P 131
WB（ホワイトバランス）ボタン ☞ P 73
AF（フォーカスモード）ボタン ☞ P 58
ボタン ☞ P 15
ISOボタン ☞ P 70

資料

SSWFインジケータ ☞ P 152
モードダイヤル ☞ P 10
コントロールダイヤル
☞ P 14 、P 102
パワースイッチ
± (露出補正)
ボタン ☞ P 67
シャッターボタン
☞ P 18
ホットシュー ☞ P 46
OLYMPUS

フラッシュ
☞ P 43
OLYMPUS
ミラー
レンズ合わせマーク
レンズロックピン
レンズ着脱ボタン
セルフタイマー / リモコンランプ/
リモコン受信窓 ☞ P 54
マウント
(ボディキャップを外してからレンズ
を取り付けます。)

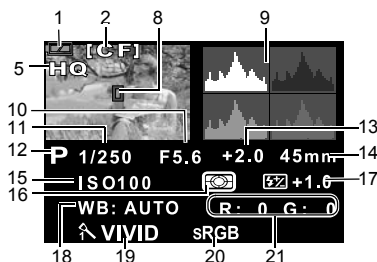
電池カバーロック
OPEN
電池カバー
三脚穴

ファインダ内の表示

番号	項目	表示例	参照ページ
1	AFフレーム	▯ ✣ ▯	P 31、P 57
2	絞り値	F5.6	P 20 - 27
3	シャッター速度	250	P 20 - 27
4	合焦マーク	●	P 31
5	フラッシュ	ϟ	P 43
6	ホワイトバランス	WB	P 73
7	AEロック	AEL	P 69
8	露出補正値（露出補正設定時）	0.7	P 67
9	測光モード	［◎］, ［●］, ［•］	P 65
10	電池残量	▭, ▭（点滅）	—
11	露出モード	**P**, **Ps**, **A**, **S**, **M**	P 20 - 27

11
資料

液晶モニタ内の表示（再生時）

INFO（情報表示)ボタンを使って表示を切り替えることができます。
☞「情報表示」(P 85)

1コマ再生情報

撮影情報

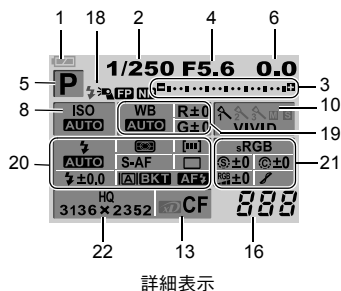
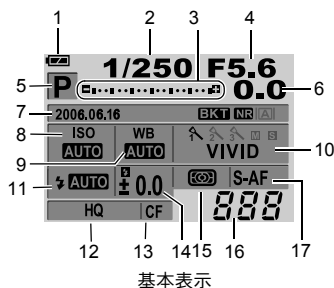
番号	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	,	—
2	使用カード	CF, xD	P 155
3	プリント予約 プリント枚数	x10	P 112
4	プロテクト		P 92
5	画質モード	RAW, TIFF, SHQ, HQ, SQ	P 64
6	日時	’06. 06. 16. 21：56	P 111
7	ファイル番号 コマ番号	100-0030 30	P 85
8	AFフレーム		P 57
9	ヒストグラム		P 85
10	絞り値	F2.8	P 20 - 27
11	シャッター速度	1/4000	P 20 - 27
12	露出モード	**P**, **A**, **S**, **M**, , , , ,	P 17 - 27
13	露出補正	0.7	P 67
14	焦点距離*	45mm	P 178
15	ISO感度	AUTO, ISO 100, ISO 200, ISO 400	P 70
16	測光モード	, , , **HI**, **SH**	P 65
17	フラッシュ補正	+0.5	P 44
18	ホワイトバランス	WB : AUTO	P 73
19	仕上がりモード	VIVID	P 77
20	カラー設定	sRGB, Adobe RGB	P 80
21	ホワイトバランス補正	R: +3, G: -2	P 76

* 焦点距離は1mm単位で表示されます。

11
資料

スーパーコンパネ画面表示

基本表示

詳細表示

番号	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	,	—
2	シャッター速度	1/2000	P 20 - 27
3	露出補正インジケータ 露出レベルインジケータ フラッシュ発光量補正レベルインジケータ		P 68 P 27 P 44
4	絞り値	F2.8	P 20 - 27
5	露出モード	P, A, S, M, , , , ,	P 17 - 27
6	露出補正値	+2.0	P 67
7	日時 オートブラケット撮影 ノイズリダクション ライブビュー	’06. 06. 16, 21:56 BKT NR A, B	P 111 P 32 P 79 P 28
8	ISO感度	AUTO, 100, 200, 400	P 70
9	ホワイトバランス	,	P 73
10	仕上がりモード	VIVID	P 77
11	フラッシュモード	,	P 42
12	画質モード	RAW+SHQ	P 64
13	使用カード	, CF	P 155
14	フラッシュ補正値	+2.0	P 44
15	測光モード	, , , HI, SH	P 65
16	撮影可能枚数	135	—

番号	項目	表示例	参照ページ
17	フォーカスモード	S-AF	P 58
18	スーパー FP発光 ノイズリダクション	FP NR	P 47 P 79
19	ホワイトバランス ホワイトバランス補正	, R+3, G-2	P 73 P 76
20	フラッシュモード フラッシュ補正値 測光モード フォーカスモード AFフレーム 連写 / セルフタイマー / リモコン ライブビュー オートブラケット撮影 AFイルミネータ	 +2.0 , , S-AF [▪▪▪] , 2s, A, B BKT AF	P 41 P 44 P 65 P 58 P 57 P 50 - 53 P 28 P 32 P 62
21	カラー設定 シャープネス コントラスト 彩度 階調	sRGB, Adobe RGB S+2 C+2 RGB+2 , H, L	P 80 P 77 P 77 P 77 P 78
22	画質モード 画質サイズ	RAW+SHQ 1280×960	P 64

用語解説

50 音順

圧縮率

画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）

撮影用レンズから入ってくる光を、反射ミラーで屈折させてファインダで確認するカメラです。撮影される構図とファインダで見えている構図にずれが生じません。

色温度

光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数

画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）

画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640×480のときではモニタ全体に表示されますが、1024×768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間

3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

けられ

撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

撮像素子

レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。撮像素子で受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

絞り

レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光

ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）

電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点測光

画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタル ESP 測光（electro selective pattern）

画面内を49エリアに分割して個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度

ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

露出

画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

アルファベット順

AE（automatic exposure）

自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せるAモード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

A モード（aperture priority mode）

絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

DCF（design rule for camera file system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）

デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）

露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO

国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）

カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

M モード（manual mode）

シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC / PAL（National Television Systems Committee / Phase Alternating Line）

テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

P モード（program mode）

プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAW データ

未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

S モード（shutter speed priority mode）

シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度に従って絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF（tagged image file format）

モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TFT（thin-film transistor）

カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式

カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL 位相差検出方式

位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

レンズについて

使用できるレンズ

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
レンズは専用レンズ（フォーサーズマウント）をご使用ください。専用レンズ以外では、オートフォーカス（AF）や正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

フォーサーズマウント

オリンパスが開発した規格。フォーサーズシステムのレンズマウント規格。既存の35mmフィルム一眼レフカメラ用レンズシステムにとらわれず、デジタルカメラの特性にふさわしい光学設計に基づいて、新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

ZUIKO DIGITAL 用交換レンズ

過酷なプロユースにも耐えうるよう設計された「フォーサーズシステム」専用の交換レンズです。「フォーサーズシステム」の利点を活かすことで、大口径でありながら小型軽量化を実現しています。
フォーサーズシステム専用交換レンズには下記の他多くの製品を揃えています。

ZUIKO DIGITAL ED 50mm-200mm F2.8-3.5：
35mmフィルムカメラ換算で100-400mm相当の超望遠ズームレンズ
ZUIKO DIGITAL 40m-150mm F3.5－4.5：
35mmフィルムカメラ換算で80-300mm相当の望遠ズームレンズ

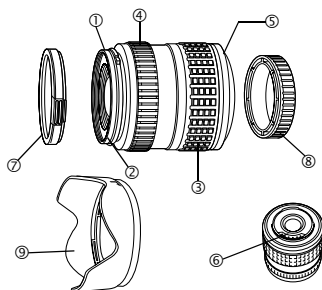
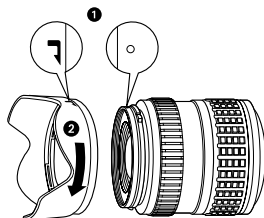
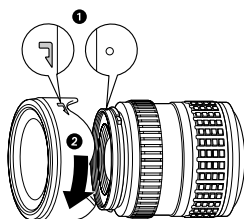
注意

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- 埃の多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、埃の侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

ZUIKO DIGITAL 交換レンズについて

ZUIKO DIGITAL 14-45mm F3.5-5.6

■ 各部の名称

① フード取り付け部
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ
⑧ リアキャップ
⑨ レンズフード

■ フードの取り付け方

■ フードの収納のしかた

逆光時はフードを取り付けて撮影してください。

12

交換レンズについて

■ 主な仕様

マウント	フォーサーズマウント
焦点距離	14~45mm
最大口径比	F3.5~5.6
画角	75°~27°
レンズ構成	10群12枚 多層膜コーティング（一部単層）
絞り制御	F3.5~22
撮影距離	0.38m~∞（無限遠）
ピント調整方式	AF/MF切り換え
質量	285g（フード、キャップを除く）
大きさ 最大径×全長	ø71×86.5mm
レンズフード取り付け	バヨネット式
フィルター取り付けネジ径	58mm

別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。

焦点距離	ピント合わせ	撮影可能範囲	倍率 （）は35mmフィルムカメラ換算
14mm	ピントが合わないため使用できません。		
25mm	MF	15.3cm~15.7cm	0.99~1.14x（1.98~2.28x）
45mm	MF	20.8cm~23.5cm	0.57~0.78x（1.14~1.56x）

■ 保管上のご注意

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のごみや汚れは、ブロワーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 有機溶剤は使わないでください。

撮影時のご注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚さのある種類を使用したときは、画面にケラレが生ずることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、以下のような場所で長時間使用したり保管しないでください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。予めビニール袋などに入れて密封し、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- 長期間使用しないと、かびがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 電気接点部や交換用レンズには触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。

電池について

- お買い上げ時の電池について
  - 電池は未使用時も自己放電します。お買い上げの電池は必ず充電してからご使用ください。また、長時間ご使用にならなかった電池も必ず再充電してからご使用ください。
  - ご使用前に電池の端子が汚れていないことを確認してください。汚れていると接触不良により充電が正常にできなかったり、使用時間が短くなる原因になります。

- お手入れのしかた
  - 本体・端子などの汚れは乾いた柔らかい布で拭いてください。濡れた雑巾等で拭くと故障の原因になります。また、アルコール・シンナー・ベンジン・洗剤等で拭いたりしないでください。
- 使用温度について
  - 電池は、ご使用になるカメラの動作保証温度範囲内でご使用ください。
  - 動作保証温度範囲内でも、低温になるほど使用時間が短くなります。予備の充電した電池をポケット等に入れて暖めておくことをお勧めします。ポケットにはショート防止のため、必ず付属の保護キャップをしっかり付けて、かつ電池以外のものは入れないでください。
  - 充電時の周囲の温度は10℃~30℃の範囲が適切です。
  - カメラの使用直後等、電池の温度が高い場合があります。この状態では充電が不完全になることがありますので電池の温度が下がってから充電してください。
- 持ち運び保管時の注意
  - 保管の際、電池を充電器やカメラに取り付けたままにしておくと、電源OFF状態でも少量の電流が流れ続け電池の性能劣化の原因となります。ご使用にならないときは付属の保護キャップを付けて湿気の少ない15℃~25℃くらいの涼しい場所で保管してください。
  - 持ち運び・保管の際は＋ − 電極端子がショートしないように必ず付属の保護キャップをしっかり付けてください。バッグや引き出し等にアクセサリ等金属類と一緒に入れて保管したり持ち運んだりするのはおやめください。発火・発熱・破裂・漏液の原因になり危険です。
- 充電池の寿命について
  - 電池は充放電を繰り返すことにより性能が徐々に劣化します。使用時間が著しく短くなったら交換時期です。使用条件にもよりますが、約500回の充放電で電池容量が半減します。
- 不要になった電池のリサイクルについて
  - このマークは小型充電式電池の再利用を目的として制定されたリサイクルマークです。充電式電池に用いられる希少な資源を有効に活用するためにリサイクルにご協力ください。電池は「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」加入の電気店またはスーパー等に設置のリサイクルボックスで回収しています。詳しくは社団法人電池工業会ホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。

    なおご不要の電池は必ず付属の保護キャップを付けてテープで止めるか、全ての＋極と−極をセロテープ等で絶縁してからリサイクルボックスに入れてください。
- 充電時の注意
  - 充電の最中に充電器や電池が暖かくなりますが、異常ではありません。
  - 充電の最中にテレビ・ラジオにノイズがのることがありますが故障ではありません。そのような場合にはテレビ・ラジオから離れた場所でご使用ください。

- 海外へお持ちになる方について
  - 本機器を海外でご使用の際は、ご使用になる地域のコンセントに合った変換プラグが必要です。変換プラグアダプタにつきましては、あらかじめ旅行代理店等にお尋ねください。電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因になりますのでご使用なさらないでください。

液晶モニタについて

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- 本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲をお守りください。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

● お名前（フリガナ）
● 連絡先：郵便番号
住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号／FAX
E-mail
● 製品名（型番)：E-330
● シリアル番号（製品底面に記載されています)：
● お買い上げ日：
● 問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など)：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- **ご使用のパソコンの種類：**
- **パソコンメーカー・型番等**
- **メモリの容量　ハードディスクの空き容量：**
- **OS名とバージョン：**
- **（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容**
- **（Windows）コントロールパネル — システム — デバイスマネージャーの内容**
- **その他接続されている周辺機器名：**
- **問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：**
- **問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：**

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OLYMPUS®

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914 **東京都新宿区西新宿**2**の**3**の**1 **新宿モノリス**

- **ホームページによる情報提供について**
  製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
  オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

- **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**
  フリーダイヤル **0120-084215**
  携帯電話・PHSからは **0426-42-7499**
  FAX **0426-42-7486**

  調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

  カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
  オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
  「お客様サポート」のページをご参照ください。

- **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）**につきましては、本製品に**同梱の「オリンパス代理店リスト」、**またはオリンパスホームページ
  http://www.olympus.co.jp/ から
  「お客様サポート」のページをご参照ください。

  記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
  http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

VH488301